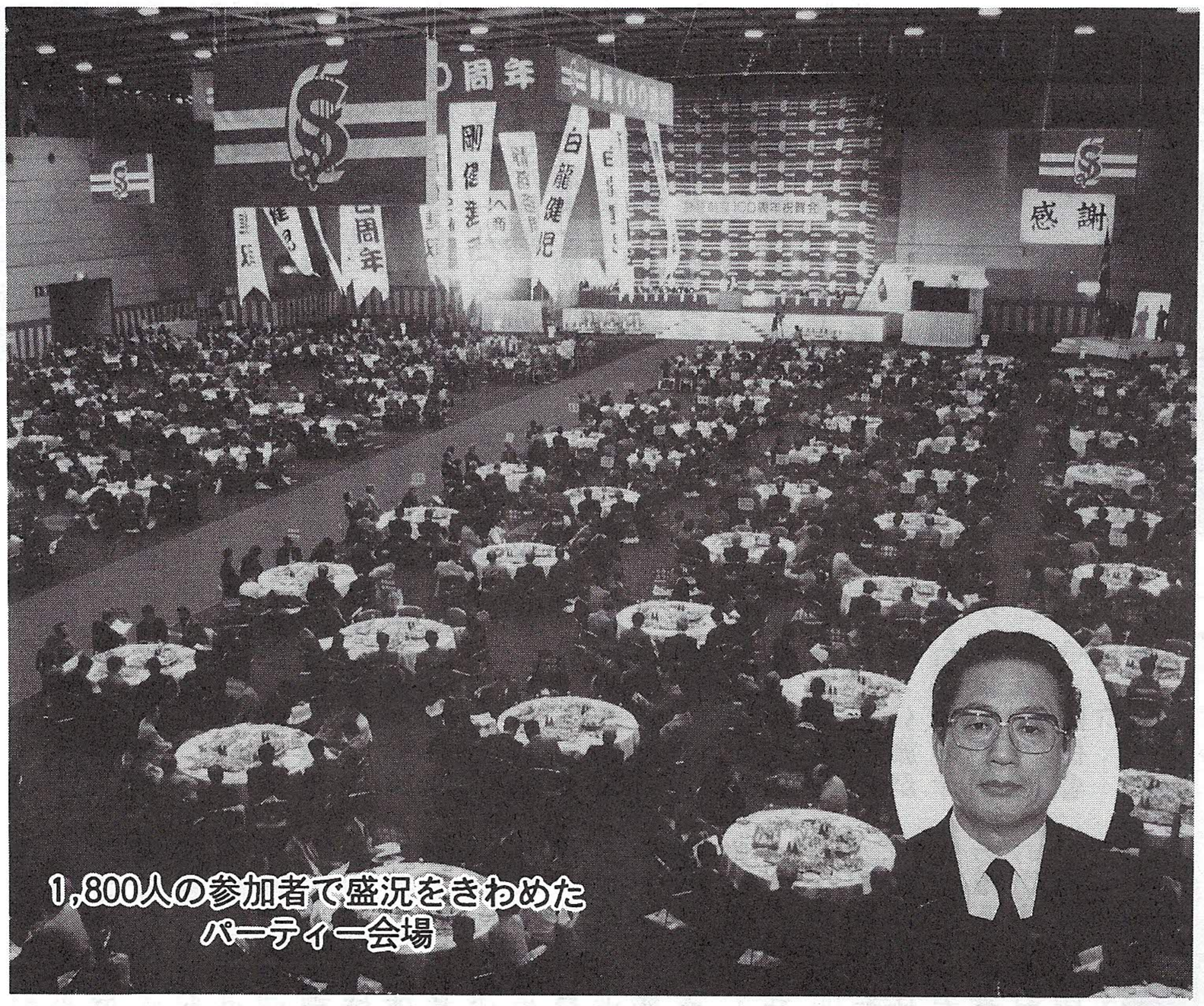
静商同窓会
関東支部
会報

発行人
静岡県立静岡商業高等学校
同窓会　関東支部
（静商同窓会関東支部）
〒104-0051 東京都中央区佃1-9-11
TEL 03(3531)6878
FAX 03(3531)5771

編集
関東支部広報部会
平成11年5月28日発行
（毎年1回・5月発行）
題字　湯本克巳氏
第八号

百年の重み　思い万感

支部長　湯本克巳



1,800人の参加者で盛況をきわめたパーティー会場

我が母校、県立静岡商業高等学校の、創立百周年祝賀パーティーが、静岡・ツインメッセで盛大に挙行されました。

平成十年十月十日を『トリプル・テン』と称する「歴史的なイベントへの参加」を合言葉に、平成三年に設立された、関東支部会員の母校に対する熱き思いを代表して、パーティーに参加致しました。

ツインメッセ静岡のあの大ホールを全国から千八百人もの卒業生が、母校のために一堂に会したその様子は、熱気に満ち溢れ、まさに圧巻でありました。

桐山校長、片山同窓会長の挨拶の端はし、またそれに続く小嶋静岡市長、川井商工会議所会頭の祝辞に、百年の重みを改めて感じた次第であります。

懐かしい恩師や友と語り、旧交を温め、結束を確認し合いました。

在校生ブラスバンド部の演奏する百年の時代を代表する曲や、応援団の堂々たる応援に、先輩として大変嬉しく思い、鏡開き・そして最後の校歌大合唱の時には熱いものが込み上げて参り、祝宴も最高潮に達したのであります。

パーティー終了後も、私は感動に包まれ、静商健児ここに在りを痛感し、まさに心が躍り上がった一日でした。

幸運にも、この百周年行事に参加でき、些かなりとも関東支部として記念事業に協力出来、また、事業が成功裡に終了致しましたことは喜ばしい限りであり、心から神仏に感謝するとともに、皆様方の並々ならぬ熱意と、ご協力の賜物と深謝致しております。

百周年を新たな出発点として「静商及び静商同窓会」の限りなき前進と、更なる発展を心から願ってやみません。

平成十一年度　関東支部　総会・懇親会開催のお知らせ

今年の総会を左記の通り開催いたします。毎年多くの皆さんが参加して下さってます。

今年も大きく輪を拡げていきましょう。ネクタイなどをはずした、気軽なスタイルで、同期・同友の皆さんを、お誘い合わせの上、是非参加して下さい。

※日時　七月十日（土）午後三時より
（受付は二時三十分）

※会場　築地スエヒロ
東京都中央区築地四―一―十五
電話　〇三―（三五四二）―三九五一

＊第一部　総　会
議事・平成十年度会計報告及び監査報告
平成十一年度予算審議・役員改選他

＊第二部　懇親会
楽しく賑やかに、ジャズ演奏やビンゴ・ゲームを予定しています。
名産品の黒ハンペン・桜えびも出品。

※会費　（年会費）（懇親会費）（計）
男性　二千円＋八千円＝一〇、〇〇〇円
女性　二千円＋六千円＝八、〇〇〇円

※懇親会ご招待のお知らせ

卒業後四年目までの諸君は懇親会へ招待しています。積極的に参加して先輩たちとの交流を図って下さい。

（今年度の卒業生は年会費も不要です）

※お願い

＊同封のハガキに出・欠をご記入の上
六月三十日までに、必ずご投函願います。

＊年会費（二千円）は、会の運営費と基金に充てています。同封の払込用紙にて納入下さる様お願い致します。（ご寄付も大歓迎です。）

（本年度の懇親会運営は、31・41・51年度卒業の皆さんが担当します。）

トリプルテンを祝いました

副支部長　中村達郎（32年卒）

平成十年十月十日。熱き思いで迎えたトリプル・テンは、まさに百年の歴史の重みを彷彿とさせ、世紀に一度のイベントにふさわしく、厳粛さと、感動とが綯い交ぜ合い、一八〇〇人が一堂に会した静岡・ツインメッセにて盛大に開催されました。

当日関東支部から参加した会員は、湯本支部長をはじめとする一〇〇余名。

各々が思い思いに支部特製の記念バンダナを巻き、共輩と語り合う姿が随所に見られ、会場に華やかな彩りを添えてくれました。

例年、支部総会でも異彩を放つ墨絵の後藤和信さんも墨痕鮮やかに健筆を奮って下さり、熱気に一層の拍車を掛けて下さいました。

更に、遠く海外からも馳せ参じてくれた同窓生も見られ、胸熱き思いを致しました。

メイン・ステージでは、天井から掲げられた九九枚のSCの旗に、親子三代に亘って静商生という家系の生徒の手によって、一〇〇枚目のSC旗が掲げられてのオープニングセレモニーが厳かに行われ、関係者挨拶の後、記念事業の説明及び、在校生から募集した記念論文の優秀者表彰（最優秀賞の論文内容は八面に掲載。）などがありました。

記念事業のメインとして目論まれていた

①「教育育英資金」

②「記念植樹」

③「記念碑建立」

などの為の基金も目標額の一億円を達成出来たとの、うれしい報告がなされました。〔この募金行為に対しまして、関東支部として積み立て金より二〇〇万円を拠出、昨年の総会のおりに贈呈致しました。ここに改めてご報告致します。〕

①については、「静商教育振興基金」（仮称）とし、同窓会・学校側・PTAの三者と一部有識者に運営を委ねる事になりました。

②及び③については、現在新築中の校舎完成時に引き渡されます。

以上の事柄などの報告の後パーティーに移り、アトラクションにデキシーランドジャズの演奏などもあり、興奮と感激のうちに献盃が続けられ、関東支部・池田博之さんの指揮による校歌の大合唱には、全員総立ちの中、胸にせまる思いを堪えきれませんでした。

本部行事に先立ち、開催の関東支部・定例総会は

①クラーク先生の講演。（講演要旨は六面に掲載）

②先述の通り、基金として二〇〇万円の贈呈。

③後藤和信さんの即席画。

④記念バンダナ・テレホンカード・わさび漬をお土産として配布。

⑤懇親会では

プロのギター奏者によるBGM演奏の中ビンゴゲームなど。

などの特別企画で百周年を祝福致しました。

関東支部からの参加者 ～一杯の笑顔～

湯本支部長から本部への拠出金贈呈

「百周年」で奇跡が!?

木下孝子（42年卒）

私の実家（藤枝）は、父・姉・兄・私・姪・甥と静商大好き家族です。

父の時代、藤枝からの通学は珍しく、今は亡き父が生きていたら、80歳でも静商時代の友人はずっと友人で、入院中のお見舞いや、弔辞を頂き、娘の私にもお名前だけは存じている方がお一人居られました。

式典はさすが百周年。戦前の駿府公園にあった静商（父が通ったそうです。）軍服姿の校長先生をはじめセピア色の写真が並び、歴史を感じました。

会場は、卒業順のテーブルに、父の年齢のような大先輩が大半を占め、百年分の祝辞が、市長をはじめ大勢の方々からありました。

お祭り騒ぎが大好きだった父だから、真っ先に駆け付け、人一倍楽しんだろうなと感慨に浸ったひとときでした。

前列左端が木下さん

同期だけの二次会を東海軒でという事で、タクシー待ちの折り、持っていたサンドウィッチを見て「若い人はいいね」と声をかけてくれた方がいました。

父と同じような年回りの方で、この式典に父が出席できていたら……と思い続けていた所以か、思わずお生まれの年を聞いてしまいました。「大正八年ですよ。」「えっ―じゃあ」と父の名をいうと「えっ、優ちゃんの娘さんか?」と。

何と何と、父の親友中の親友、あの武助さんだったのです。千八百人集まった中で、たった一人の人と巡り会ったのです。

駅までの車中で、父の青春時代の思い出を話してくれました。

帰宅後、母に話すと「お父さんも式典に参加していたんだね。」と涙を流してくれました。

不思議な体験でした。

この様な機会を作って下さった皆様に感謝の気持ちで一杯です。

最後に、在校生による記念論文コンクール・最優秀賞の「二十一世紀の静商を考える」には大変感動いたしました。

士農工商の農業重視の時代に、貿易立国日本を考え、先見性をもって設立された静商。

そして、二十一世紀に向け文化立国日本として、真の国際人を育成する静商に学ぶことを誇りに思い、頑張っていきたいと結んだ論文に静商の明るい未来を予感しました。

益々躍進する静商に乾杯!!

記念総会を祝う

母校百周年に想う

佐藤富士夫（30年卒）

「本校は明治三十一年十月二十一日、文部省より設立を認可せられ、翌三十二年四月十七日静岡市本通三丁目元英語専門学校の建物を仮校舎に充て開校し、翌十八日より授業を開始す」の創立由来書が静岡市役所に所蔵されているとのこと。

一口に百年というけれども、この百年は我国にとって、近代国家に脱皮するための激動の百年といえる。

その間母校静商は、日本経済の中核を担う人材を輩出し、地域と国家に貢献して来たといえる。

さて、昨年7月11日築地スエヒロに於いて〝母校百周年を祝う同窓会関東支部の祝典〟が開催された。

恒例の総会に続き、グレゴリー・クラーク先生の記念講演があり、「貯蓄率の高いのは、高度成長期は美徳であったが、今やバカンス消費を含め、需要喚起をせよ」との示唆に富む内容の濃い講演であった。

当日の出席者は、来賓を含め、一七〇名以上。

講演会の後、場を移してメイン・イベントの〝祝賀懇親会〟と相成った。

ところで、記念行事開催までの過程を顧みると、年次当番として30年・40年・50年卒の、三年次が大役をお受けする事となった。

一昨年、平成9年9月の幹事会に出席、基本プランから予算案迄、湯本支部長以下、本部役員諸氏からも説明を受け、出席者全員の真摯な姿に母校への思いがヒシヒシと伝わり、並々ならぬエネルギーを感じたことは記憶に新しい。

当日の祝賀懇親会場は、母校の歴史を写真で掲出し軟式野球部全国大会、昭和43年優勝預かりの決着試合ビデオが放映されたりと、楽しい雰囲気に包まれた。

30年卒望月昌房氏の指揮で校歌、応援歌を唄い、プロのギター奏者のBGMに耳を傾け、ふるさとの黒ハンペンを賞味しつゝ歓談のひとときを楽しんだ。

後藤先生の即席画は、一瞬のうちに完売、先生のご好意でご寄付を頂いたことを誌上を借りお礼申し上げたい。

支部の中には同好会があり、「歩こう会」「ゴルフ会」などの報告の後「カラオケ同好会」の歌唱披露で会場は盛り上がって行った。

そして最後は〝お楽しみビンゴゲーム〟

会員各位からご寄贈頂いた景品は、心の贈り物として、ほのぼのとした余韻を残してくれたものと思う。

記念品として「バンダナ」「百周年の人文字テレホンカード」「故郷のワサビ漬」のセットは好評だったようで、会の盛り上がりと共に年次当番一同の苦労も報われたと、満足感を味わった一年であった。

七年振りに関東に戻った途端、幸運にも年度幹事の年に当たり、九月からの会合に参画し、その会を通じて一挙に、多くの役員の皆さんと、七年間待たされたブランクを埋めることを得て、総会には初参加乍ら臆することなく出席することが出来ました。

七年目にして、初めてこの素晴らしい総会に出席する事が出来、立派な諸先輩頼もしい後輩の皆さんにもお目に掛れて、本当に楽しい一時を過ごさせて頂きました。

次回も必ず出席し、声高らかに「波メロディー」を歌えたら、どんなに嬉しい事でしょう。

念願の総会に参加できた喜び

原　初典（40年卒）

昨日まで面識の無かった諸先輩・後輩の皆さんと、ただ同窓生ということだけで、古くからの友人のごとくと杯を酌み交わす。この素晴らしい宴の会、即ち、私が七年間夢みた関東支部総会なのです。

平成三年七月に開催の、第一回総会の時私は、四月に福岡に転勤し、その後名古屋を経由して一昨年関東に戻るまで足掛け七年間、総会の素晴らしい盛会の様子を会報で知る都度、関東支部の皆様が羨ましくてなりませんでした。

さて、会員の皆様の中には、総会に出席したいがまだ一度も出席した事がないとか、出席しても知り合いがいない等を理由に尻込みされておられる方も多いと思われます。

同じ静商を卒業した仲間の集まりです。誰とでも古くからの友人のごとく、杯を酌み交わすことの出来る素晴らしい会です。

是非一度ご出席されることをお薦めします。

総会参加の方の声を聞いてみますと、関東地区で開く同期会で懇親を深め、準備の為開かれる会合に参画する事で多くの方々と親しくなり、自然と出席するようになったとの事でした。

この様なキカッケがあれば、初参加ということでも臆する事なく総会に出席出来るわけです。

記念総会を振り返って

古井陸志（30年卒）

創立百周年記念大会が、10月10日に地元静岡で開催されることもあり、この記念すべき年の総会に我々30年卒（40年・50年卒と共に）が幹事役に当ったのも、またま同期のほとんどが仕事の面では現役を離れ、新しい道を求めて、さてこれから何を？と考える時期に当たり、それぞれが、今まで会社勤めでしてきた仕事とは、内容や環境の全く違うところで〝必ずこの会を成功させる〟という一つの目的に向けて旧い友達や、若い仲間達が、一堂に会して、何度も何度も話し合う機会に参加出来たことは、大変有意義でした。

年次当番がそれぞれ役割分担を決め、繰り返し検討を続け、いろいろな案を作り、壊し、練り直し、少しずつ計画が固まって行く中で当番幹事全員の連帯感が強まり、年代を超えて一体感をもって会の開催を迎えられました。

懇親会での郷土名産ワサビ漬けのお土産や、ハンペンのフライなど、いつもながら好評で、結果としては、ほぼ満足の頂けた大会になった事と思います。

今の世の中、連帯感などという言葉は死語になりつつありますが（我々の年代としては）人間が生きていく限り、人と人との関わり合いや、心と心のつながりはいつの時代にも決して無くしてはならないものと思います。

この一年、微力ながら計画に参加、協力をさせて頂いたことで、まだまだ若い人に負けず《剛健進取》の気概を強く持つことが出来たことに感謝します。

このような会を成功させる要因は、如何にして参加する人の数を確保するかに尽きると思います。

日頃から同期、先輩、後輩を問わず、あらゆる機会を捉らえて参加を呼びかけて行くことが必要だと思います。皆さん、声を掛け合って参りましょう。

静商百年史余話

後藤 一雄（24年卒）

平成十年十月十日の静商百周年記念祝賀パーティには、約二百名の来賓の方々と同窓生約千八百名の参加者で『ツインメッセ静商』が埋めつくされた。関東支部からも大勢の参加をみて、まさに「静商健児ここにあり」と意気高らかに一大イベントが催された。百周年行事について、各種のイベント、記念史刊行等にあたられた方々に感謝の意を表したい。

さて、母校創立百周年にあたり、次のような事がありましたので皆さんにお知らせしましょう。

それは、母校創立の由来の事です。

とりわけ静商百年史については、伏見勝さん（昭和27年卒）が編集委員長の労を執られて、大変立派な二冊セットを刊行された事、我々同窓生にとって誠に嬉しく有り難い事でした。

実は、「あとがき」を伏見さんが書かれていますが、その中に母校創立時の資料について次のような説明がされています。

『当初は資料が少なく、特に明治期は極めて乏しかったため、本史を如何に構成するか苦悩する処であった。しかし、幸いにも本校が提出した明治期の文書が、静岡市役所に存在することが静岡市議の鈴木和彦氏（33年卒）より知らされ、同氏の斡旋により借り受けることができた。

和紙に草書体で書かれているこの文書の活用が可能となったのは、偏えに古文書解読に精通した佐藤一郎氏（16年卒）のご尽力によるものであった。

このようにして、全編を編年体で構成することが可能になったのである。』

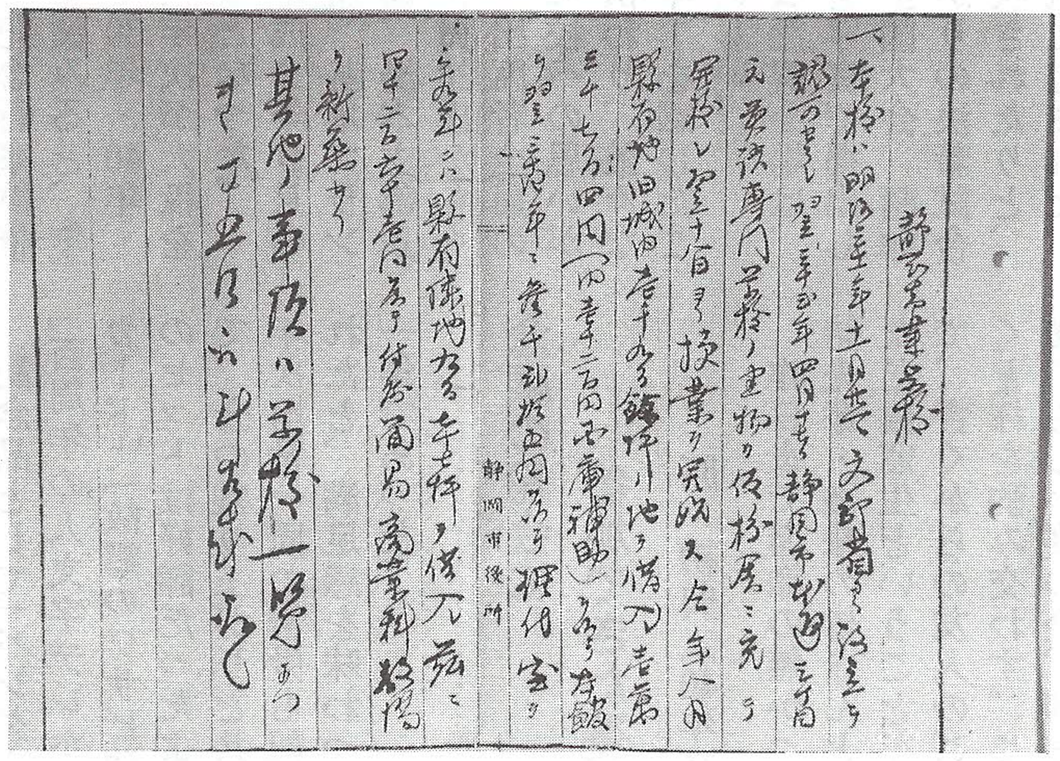
ここで、由来書を明らかにされた佐藤一郎さんのプロフィールについて述べてみましょう。昭和十六年三月に静商卒業後国鉄に勤務、戦中はビルマ方面の鉄道部隊に従軍されました。復員後、再び国鉄に勤める傍ら郷土研究部をいろいろと指導して頂いた先輩です。（百年史下巻P60～61に登呂遺跡発掘の記事あり）

佐藤さんは国鉄を退職された後、暫くたって県の依頼により古文書の翻刻をされていたところ、静岡市役所蔵文書の中に静商創立の由来書がある事が判明し、平成九年十一月に翻刻されて、その由来書のコピーと翻刻文が同年十二月に私にまた、同期の深尾孝さんにも送られてきました。

それは、次のようなものでした。

（一）静岡市罫紙B4版の由来書のコピー（写真参照）

（二）翻刻文



静岡市役所所蔵の静商創立由来書

静岡商業学校

一、本校ハ明治三十一年十一月二十一日、文部省ヨリ設立ヲ認可セラレ、翌三十二年四月十七日静岡市本通三丁目元英語専門学校ノ建物ヲ仮校舎ニ充テ開校シ、翌十八日ヨリ授業ヲ開始ス。

同年八月縣有地旧城内壱千九百余坪ノ地ヲ借入レ壱萬三千七百四円（内壱千二百円国庫補助）ヲ以テ本館ヲ、翌三十四年ニ三千二十五円ヲ以テ理化室ヲ、三十九年ニハ縣有隣地九百七十七坪ヲ借入レ、此ニ四千二百六十一円ヲ以テ、付属簡易商業科教場ヲ新築セリ。

其他ノ事項ハ学校一覧尓ツキ可然御取計相成度候

（佐藤一郎氏は本史完成を待望しておられ、平成十年八月上旬には「百周年を楽しみにしている」とのお手紙を頂いたのですが、同月十八日に急逝されてしまい大変残念な事でした。慎んで哀悼の意を表します。）

静商同窓会関東支部の皆さんに、静商百周年にまつわる余話としてお知らせする次第です。

この記事については伏見様に書状にてお願いしご承諾を頂きました。

平成10年度会計報告

（平成10年4月より平成11年3月31日より）

〈Ⅰ〉一般会計　（単位：円）

項目		金額
収入の部	前期繰越金	116,278
	本年度総会会費	1,180,000
	年会費	616,000
	寄付金	809,500
	会報広告収入	250,000
	総会売上金	85,300
	100年事業等積立金取崩	5,800,000
	預金利息等	16,730
	小計	8,757,530
	合計	8,873,808
支出の部	本年度総会費用	2,052,009
	会報発行費	573,314
	専門部会活動費	51,805
	会議費	262,500
	運営諸経費	42,281
	本部への寄付金	2,000,000
	小計	4,981,909
	支部基金に組入れ	3,600,000
	次期繰越金	291,899
	合計	8,873,808

〈Ⅱ〉基金会計　（単位：円）

項目	金額
支部基金	3,600,000

〈Ⅲ〉財産目録（平成11年3月31日現在）

項目	金額
銀行預金	291,899
MMF	3,600,000
合計	3,891,899

上記の通りご報告申し上げます。

平成11年4月16日

静商同窓会関東支部
会計　鈴木啓嗣 ㊞

平成10年度会計監査報告

監査の結果上記報告の通り相違なく適正であることを認めます。

平成11年4月16日

静商同窓会関東支部
会計監査　成川貞夫 ㊞
〃　富田修一 ㊞

懇親会あれこれ

ビンゴ・ゲームを娯しむ

望月秀雄（30年卒）

百周年記念という事で、参加者全員に賞品が当たるゲームを懇親会の目玉行事に採用しました。

何分にも初めての事で、当日の参加者数も不明ですし、全員に当たる賞品が用意出来るのか、また、当日喧噪の会場で、決められた時間通り進行させられるのか等、おおいに不安でした。

結果は「案ずるより産むが易し」で、支部長をはじめ、多くの皆さんからのご好意で賞品は充分集まりました。

気懸りであった当日の進行も総合司会者・年次役員の皆さんに積極的なご協力を頂き、予定した時間通り進行させることが出来、ホッとしました。

カラーテレビやデジタルカメラなど、素晴らしい賞品の数々に会場の雰囲気も盛り上がり、全員漏れなく当選！で、手応えは充分でした。

これからも、同じような企画があろうかと思いますので、その為の反省点として、ゲームの時間が最低でも30分ないし40分程度は必要だったのかな、時間があれば当選者とのやりとりや、個々の賞品の説明も、余裕をもって紹介する事が出来ただろうなと思っています。

ビンゴゲーム抽せん会風景

懇親会の運営に御尽力頂いた年度幹事の皆さん

世代を越えたお付き合い

杉本幸雄（50年卒）

当日は年次当番として、総合案内と会場のスナップ撮影を担当致しました。

その会場で、カメラレンズを通して気付いたチョット良いお話のご紹介。

懇親会が、徐々に盛り上がりを見せた頃から、各テーブルを中心にスナップを撮っていたのですが、他とはちょっと違う雰囲気を醸し出し、盛り上がっているグループがレンズを通して目に入ってきました。

十歳程、歳の違う五～六人の二つのグループが、実に和気藹々と談笑しているのです。

当然他のテーブルも盛り上がりは見せているのですが、ほとんどが同年配同士のグループでした。

総会終了後、48年卒の先輩と共に二次会で、大いに楽しませて頂きました。

この年代の違うグループが友人のように集まるキッカケとなったのは、一昨年の総会・懇親会の年次当番で意気投合し、その後、定期的に集まるようになったとのことです。

デジタルカメラを有り難う

神山　孝（40年卒）

昨年の記念総会も、盛会の裡に無事終了し、役員並びに運営幹事の皆様には本当にお疲れ様でした。

老いも若きも、にこやかな顔・顔・顔…。

出席の皆様には、きっと喜んで頂けた事と思います。

支部長からカメラを受け取る神山さん

私自身も、初めて出席させて頂きましたが、卒業以来30年振りに会うクラブの先輩・後輩そして同期生、本当に楽しい一時を過ごすことが出来ました。

閉会後の、同期生による二次会が盛り上がったことは言うまでもありません。

又、抽選会では、幸運にもデジタルカメラを頂き、千鳥足と共に大きな顔をして家に帰れました。

ご提供頂いた方には誌面をお借りしてお礼申し上げます。

早いもので、今年もあと数日で恒例の総会です。

出来る限り出席し、皆さんご一緒に美味しいお酒と楽しいご縁を、今後とも大切にしてゆきたいと念じております。

波メロディーを指揮して

望月昌房（30年卒）

百周年記念総会の、校歌斉唱の指揮を仰せつかったのは、一年前の年度幹事の顔合わせの席でした。

なんで私ごときが、と思いましたが、今回の年次で音楽部出身が私しか居ないからとの事でした。

日頃、会社や仕事が中心の世界では、お酒の席でもいろいろな垣根があり、心底楽しむことが少ない世代にとって、同窓を軸にしたこの会は、静岡弁も自然に出せるし、息抜きの場として恰好のものと痛感した次第です。

このグループの先輩方には、引き続きこのような会を盛り上げて頂くことをお願いして、年次当番をして気付いた、チョット良いお話のご報告と致します。

指揮をとる望月さん

記念すべき総会なので、この上ない光栄には違いありませんが、正直言っていささか不安でした。

当日は多数の同窓生が出席して下さり、大勢であるだけに無事に完唱出来るかが心配の種でした。

しかし、いざ斉唱に入ると、つたない指揮にも拘わらず、一糸乱れず二番まで完唱できました。

母校を思う心はひとつになり、母校を応援する気持ちは私だけではなく同窓生全員なんだ、とつくづく感じました。

今後も「静商永遠なれ」「静商頑張れ」という心で波メロディーを唄い続けましょう。

百周年記念講演（要旨）

『世界から見た日本』

多摩大学学長
グレゴリー・クラーク氏

独特な家族的社会

私、静岡県大好きです。（笑、拍手）あの南アルプスはすごいですね。

日本は狭い国と言われています。狭くないです。殆ど誰もいないんです。

麓でも殆ど誰もいないんですよ、井川ダムのほうでも。そう言う意味では、日本はまだ開墾、開拓の可能性ずいぶん残ってるんです。国もすごい可能性あるのに、どうして皆そんなに悲観的になって、評判はガタ落ちになって……。

たった八年前、もう後一〇年で完全にアメリカに追いつき、追い越せと皆自信満々だったでしょ。

今日そう言う声は全くないでしょ。変わり易い民族ですね。

一九四五年の八月一五日までワァワァと軍国主義。

一晩で完全に平和主義になっちゃった。不思議な国なんです。日本は。

ずっと前から我々外国人は、日本と日本人を説明する為に非常に苦労してたんです。何か――農耕民族とか。――

というと私、遊牧民族？

農業やってるのは日本人だけじゃないよ。単一民族？単一民族じゃないですよ。

方言が多いんです……38も。

静岡県も方言ありますね？

日本はバラエティに富んでる民族なんです。グループに入ると自然に協力する、これは独特です。

外国人はああいう風には出来ないんです。グループに入ると何時も意識する。

例えばドイツ、皆同じ言葉ですよ。

方言は日本よりも少ない。しかしグループに入るといつも意識する。ドイツの北部プロテスタント、南カトリック。同じキリスト教なのに区別をつけるんです。日本は全然そういう事に拘らないですね。仏教であっても結婚式は神式、お葬式は仏教でしょ。

クリスチング・ウェディングでも結構でしょ。素晴らしい事だと思います。

皆同じ日本人だから。何故独特の社会になったか？……まず人間関係でしょ。

集団主義、合理主義よりも情緒的、場合によってはちょっと感情的で、感性的。

我々外国人殆どユーラシア大陸でしょ、中国・インド・アラブ・ヨーロッパ……だから長い間、民族戦争があったんです。日本はなかった、島国だから。

だからその侭残ってたんです。人間はネェ元々家族的、集団主義。日本はその侭なんです。長い間にその家族的価値観を取り上げて洗練して、発展して、けれど今でも家族的。派閥とか系列とか集団主義とか、人間関係は私の家族と全く同じよ。徹底的な集団主義。

その中でイデオロギーとか、法律とか全然使わないよ、全部話し合いの人間関係。いろんな人いますよ、男・女／大人・子供、けど皆自然に協力してます、運命共同体だから。

毎日談合やってます損失補填もやってます。日本の企業と同じなんです。

私も終身雇用制でしょ勿論。年功序列、社内訓練、こういうやり方は非常に自然なやり方なんですけれど、世界・国際社会の中では、日本人だけなんです。

先進国民の中で、―これが問題―。

内需不足の経済

特に最近の経済状態、どうしてこういう事になったか。

日本人はよく働く、いい物作っている。物作り上手い。製造業強い、企業は運命共同体、結果は過当競争。

アメリカは合理主義だから利益追求、だから平気に合併とか倒産とか。

日本は私の家族と同じ様に最後まで頑張る、生き残り精神強い。過当競争で一層外へ輸出しなければならない、結果は貿易黒字。ともう一つ、国内であんまり需要足りない国なんです。貯蓄率高い、これ問題なんです。

今の経済、貿易黒字・円高の問題よりも内需が足りないんです。

日本人は派手にお金使うけれども、実際貯蓄率高いのは大きな魅力。

あなたの社会、階級はあるけれど、階級意識弱いんです。

これは不思議です。

何故こういう事になったか、日本人のアイデンティティは職場なんです。

非常に家族的、自分の周りの人との関係、昔は村、今は企業。

我々外国人のアイデンティティとしての精神的な拠り所は、まぁ色々ある。宗教とか、イデオロギーとか、一番大事なのはねぇ、特に新しい社会…「階級」それで決めるのは、新しい社会アメリカとかオーストラリアとか、特にアングロサクソン社会、階級決めるのは生まれつきとか教育よりも、どの位お金使っているかです。

だからアメリカ人はそういうでっかい家を持たなくちゃいけない。

これステータス・シンボルです、自分の地位への象徴。見せるんです。私の家あなたの家よりも大きい、私あなたよりはエライ。けど大きな家を建てている方が、絨毯とか家具とか電器製品をドンドン入れなくちゃならない、だから需要旺盛。

日本は全くそういう必要ないです。

自分の家とか自分の家族、自分のプライベートな部分見せないんです。だからお金使わない。

夏休み、私の外人の友達殆どいないよ。もうすぐ国に戻るんです。戻ったら威張っちゃうんです、私に対して。

「二ヶ月夏ヴァカンス、家族と一緒に国戻って、あとフランス、スペイン、中国、南米旅行。

クラークあなたは何？　房総半島二週間だけ？」（笑）

「私クラークよりもエライ」。

日本逆でしょ、あの人二週間私三日だけ、私がエライ。

結果は勤務時間長い、貯蓄率高い、つまり需要足りないんです。

国際性と文化の壁

日本人に言わせれば日本は国際的ではないでしょ。何故か、長い間鎖国だった。おかしいその話。

明治時代の日本は鎖国終わったばっかりで、超国際的だったよ。堂々と外国人と交渉して、旅行して、英語も上手だったよ、当時の外交官。もう鎖国終わったのは一五〇年位ですよ。

色々な意味で日本は国際的ですよ。全世界を旅行してる日本人、好奇心の強い民族なんですよ。

サッカーの切符持ってないのに、ずっとフランスまで行っちゃったんですョ。（笑）あとは外の文化もドンドンドンドン導入している。

食べ物、建築、服装、この辺は欧米と全く同じでしょう。

自分の家で和服とか、畳、障子あるでしょ。これは素晴らしい国際化。自分の文化守りながら外国の文化も導入する。我々外国人も同じようにやるべきなんですけど、心配してるんです。

外の文化余計に入れば、自分の文化は否定されちゃうんです。例えばフランス、フランス人は外国人に対して国際的。

アフリカの労働者、アラブ人、難民、自由に入って来る。六〇〇万人位フランスの国籍取ったんですよ。しかし同じフランス人は外来語禁止。余計に英語の言葉使えば罰金です。

ディズニーランドも……大反対ですよ。日本はどうですか、ディズニーランドだけじゃなくて、オランダ村、ドイツ村、ロシア村、カナダ村なんでもいいんですよ。外来語どんどん導入している。

しかしフランスと違って、外国人に対してある程度壁があるんですね。難民……自由に入れない、外国人労働者も、留学生も、弁護士も、大学教授も……私、私立だから大丈夫だけど、国立は排他的よ。

外国人登録証問題、国籍問題。日本国籍取るのは非常に難しい。例外的に認められれば、最近まで自分の名前も変えなくちゃいけなかった。アベコベ国際性。

いいですか、外国人はみんな文化の壁高い、人の壁よりも。まあ中国人は両方高いけど、文化の壁も高い。日本人だけ逆です。文化の壁殆どないでしょ、けれども人に対しては壁がある。中国のようにすれば理解されます。中国非常に文化のプライド高いから、だから外国人に対して排他的。

でも外から見て日本は文化のプライドの無い民族でしょ、じゃあどうして外国人に対して壁がある。日本人は人種主義、人種差別、よくそういう言葉使いますよ、外国人に対して。

どうしてこういう風になったか？

右利きなんです。日本人は。

企業とか、大学だけでなくて、国も家族のようにやっています。

つまりアイデンティティーは文化より人なんです。家族の文化ありますよいろいろ、けれどアイデンティティーは人になっちゃった。けど我々外国人はね、文化はアイデンティティーの基盤であって、文化の次元で排他的にせざるを得ない、それで結果は正常になった。

元々日本のやり方は正常なんですけど彼等の目から見てこっちが正常、日本人おかしい。留学生問題、特に中国の学生は反日感情になっちゃうんです。

お金が無い、言葉出来ない、その人達に対してね、あァいいよ二年位単純労働者として日本に来て、その間お金稼いで、言葉もうチョット上手になって、スポンサー探して大学選んで入る。

それで留学生問題解決。

いろいろこういう風に流動的にすれば逆に、文化の壁もうチョット高くしていいよ。後は貿易摩擦の問題、あんまり議論しない民族なんです。

しかし圧力されれば妥協する。

特に自動車問題、日本は排他的じゃないですよ明らかに。しかしアメリカまだ怒ってる、じゃあ妥協する。日本人同士だったら多分評価されるでしょ。左利きの理論は評価されないんですよ、議論しないけど圧力の前に妥協する「背骨のない国だ」「軟体動物」とか「クラゲ社会」。チョットだけ押せばこうする。

中国人のやり方は正反対、悪い事しても著作権問題とか、アメリカの方から圧力あれば必ず反発する。これ左利き社会の論理なんです。

「日本文化の魅力」

あのネェ最終的にもっと外国人に日本の独特の文化知って貰いたいね。

犯罪殆どない、これは素晴らしいことなんです。

あと日本人の正直さ、ほんとうに正直です。釣り銭のゴマカシ殆どないでしょ日本は。外国ではみんなやってますよ、合理主義だから。

もっと不思議なのはねェ、忘れ物、財布ちゃんと届けてくれるんです。

これ外国では考えられない事なんですよ。あの正直さはねェ何処から来ますか。

日本は法律弱い、宗教弱い、にも拘わらず正直だ。何故か？儒教文化ではないか？儒教文化ではないよ。これも家族的文化なんです。

所謂〝罪道徳〟ではなくて〝恥道徳〟。日本は長い歴史の間、あれを拡大して全社会の中にも使ってます。素晴らしい事なんです。外国人にも、もっとそういう事知って貰いたいんです。けど理解する為に日本に来て、日本人の中に生活しないと理解できないんですョ。

私、典型的な例。

初めて日本に来ましたのは三五～六年前、強い反日感情だったよ。一人でしたんです。鈍行旅行。一週間だけ。

私の態度段々と変わりましたね。チャンスあればあの面白い国に戻りたい。

それで五、六年経ってベトナム戦争きっかけとして外務省止めて、大学の研究員として日本に戻ったんです。

下町。家を借りて、商店街、銭湯、赤提灯、これも日本の文化ですよ。

歌舞伎より赤提灯の方がはるかに面白いですよ。そういう事を発見してそれで完全に親日派になったんです。小さな赤提灯は毎晩通ってて外国人なのに、言葉あまり出来ないのに、メンバー扱い。

皆さんと一緒、ママさんと一緒に花見行くように招待されてあと温泉旅行一泊。

国に帰る前の晩、私の送別会もやってくれた。日本人オーストラリア行くと同じ扱いなると思いますか。英語上手に出来ても、毎晩同じバー、クラブに通ってても、多分仲間に入れてくれないよ。

これ反日感情じゃなくて、人間関係の作り方。日本人はさっきの話、アイデンティティーは場所です。職場だけではなくて赤提灯、毎晩皆さんと食べたり、飲んだりでしょ。だから外国人だって構わないよ。だから日本人は毎晩来てもあの人は別、オーストラリア人と違う文化でしょ。一緒に食べたり、飲んだり、そういう意味ではねェ非常に国際的な民族なんですョ。けどこういう事知ってる外国人はほんとに少ないです。私ほんとにあの赤提灯、運が良かったよ。人的交流表面的ではなくてね。

大学だったら、留学生非常に表面的、社会に入れないんです。徹底的な人的交流、交換留学生、静岡県多いんですょ、殆ど親日派です。冷たい大学ではなくて、高校ですね、家族的でしょ日本の高校は。

だから同窓会成功するんです……。

日本は玉ねぎ社会。色々な輪の固まりなんです。外から見て恐いんです、入りにくい。けど運が良くて真ん中に入れられれば、言葉出来ないのに、同じ輪の人と同じ扱い。だから、これチョット覚えておいて頂きたいんです。

創立百周年記念論文コンクール

百周年記念行事の一環として、在校生を対象に「静商百周年」「静商の未来について」・「二十一世紀を担う若者のあり方」等を主なテーマとして論文を募集した結果、八七四点もの作品応募があり、関心の高さを披露してくれました。
最優秀賞に選ばれた作品を掲載いたします。

最優秀賞受賞作品

『二十一世紀の静商』を考える

武石祐季（H10年卒）
サンタモニカカレッジ留学中

静岡商業は今、百周年という大きな区切りを迎えようとしている。

そしてこの機会に、二十一世紀に向けて静岡商業を見直す必要があるだろう。

静岡商業が創立されたのは明治の三十年代である。この頃はまだ「士農工商」という観念が生きていて、商業よりもむしろ農業に重点を置いていた時代だった。

誰もが本格的な商業活動に余り目を向けていない頃に、貿易立国日本の将来を考え、商業学校を設立したことは、とても画期的であり、百年も先を見ていたということになる。

二十一世紀を目前にして、今度は何を目標として進むべきなのだろうか。

商業高校であるからその基礎となる簿記・会計・情報処理等を学ぶのは当然のことだが、平成に入り国際経済科という学科ができた。この事はさまざまな意味で素晴らしい事である。

商業知識だけでなく国際感覚も身につけることができるからだ。

商業の専門高校というと、国際的な面においてはあまり期待できないのではないかというイメージがあったが、明治・大正期の静岡商業は英語の授業が最低でも週に八時間はあり、英語での弁論大会が開かれるなど、今よりも国際的な活動が盛んに行われていたのである。

「国際化」という言葉をよく耳にするようになった今、国際経済科は重要な役割を果すことになる。

しかし単に国際化といっても、その国際化が進む中で自分がどうすべきかについて考える人は少ない。

日本人が、外国に渡って活動するだけでなく、逆に外国人が日本で生活することや、日本で生まれたインスタント食品が形を変えて世界で見かけられるなど、国際化にもさまざまな形がある。

いまの時代は、英語くらい話せて当たり前だとか、これからは、アジアの時代だから英語だけでは不十分だとか言われているが、実際に日本人の中で英語、もしくはその他の外国語を、流暢に話すことができる人はまだ少ない。

国際化、という言葉だけが先走りしてしまっているのではないだろうか。

現在、私のいる国際経済科では英語の授業を多く取り入れ、実用英語から商業英語まで幅広い分野で勉強をしている。また英語実務という授業ではディベートの練習をしている。

日本人が外国人と意見をたたかわせる時、おうおうにして外国人の主張に負けてしまうのは、日本人が自分の意見を言葉にして相手に伝えるのが下手だからである。

自分の主張を、相手に上手に伝えるようにするために、ディベートというのは大切で、もっと一般の授業の中にも取り入れるべきだと思う。

もちろん外国人と正確なコミュニケーションをとる上で、英語力は必要となるのだが、それだけでは国際化社会には対応できない。

昔の国際化というのは、単に外国のまねをして日本に持ち込むだけの受け身の形だったが、今の国際化は相互理解と共存の上に成り立っている。

数年前から日本企業の海外進出が急増している。

海外には厳しい規制が少ないことや、安い賃金で労働者を雇えることなどが進出の主な理由に挙げられる。しかしこれら企業のいくつかは失敗に終わっている。

失敗の原因はたいてい日本企業の利益優先主義か、現地の文化・宗教等の認識不足だ。それだけでなく、日本人は日本の文化についても認識不足だと思う。

私は、今までにホームスティでアメリカに行ったり修学旅行ではマレーシアに行ったことがあるが、外国人は、日本人がするような古典的な決まった質問ばかりをするのではなく、日本人の私でもわからないような事を聞いてくる。

アメリカ人の友人に、仏教の精神について聞かれた時も明確な答えを返すことができなかった。

ホストファミリーが、アメリカや、その町の文化や習慣について多く語ってくれたのに対して、日本人の学生で、日本の文化や宗教について詳しく語れた人はいなかった。

日本人は、留学生の増加や日本に住む外国人の増加など、表面的な部分だけしか見ていなく、自分が国際化の進む日本で生活している、ということに対して非常に鈍感だ。

実際、日本のサラリーマンが集まると、会話の内容のほとんどは野球や仕事の事で、日本の文化や国際化について話すことはないという。

本当の国際化を目指すなら、まずは足下に目を向けて自分の国やその歴史・文化を理解することから始めるべきだ。それが出来て初めて相手の理解が出来るのではないだろうか。

音楽の分野でも、独自の民族性の上に成立したものは、日本人が安易に日本語なまりの外国語で歌ってみても、外国人から見ると漫画やアニメのようにしか見えないことがある、という話を聞いたことがある。

これは日本の文化である能や歌舞伎を外国人がやると何となく不自然に見えるのと同じである。

それは、それぞれの国にも民族にも個性というものがあるからだろう。

風土に根差したその個性は、長い歴史の中から培われてくるものであり、その理解なしに本当の文化の交流や摂取は成り立たないと思う。だからこそ自国の文化を伝える時には、より深い理解と正しく伝える方法が大切となるのだ。

数年前、初めて日本の国技である相撲をアメリカで興業した時、ポスターに「日本のレスリング」と書いて宣伝したのだが、もともとレスリングというのは見世物という意味が強かったため、プロレスと比較され評判は悪く失敗に終わった。

しかし、これを反省して、次にヨーロッパで相撲を興業した時には、相撲は日本の文化で、力士は「神々の姿」である、と紹介したため、ヨーロッパ人は相撲という日本独自の文化を楽しみ、大好評に終わった。

このように国際化というのは従来の物・金・人の交流から文化の交流へ、そして文化の相互理解と共存へと進むべきではないだろうか。

そのためには、一方的に相手の国の文化を学ぶだけではなく、それと同様に自国の文化を理解することが重要になってくるのである。

異文化理解は、国際化社会の中で活動していく上で必要不可欠なものだが、これは自分の国を理解することでもあるから、これから私たちは、自分の国についての知識を身につけることがより必要となってくるのである。

そのためにも、これからの学校教育では外国の文化や経済だけでなく、日本にも目を向けた授業を重視していくべきだと思う。

百周年を迎える今、百年前、将来の貿易立国日本の発展を支える人材を育成するために出発した静商が、二十一世紀を目前に、経済のみならず、文化立国として活躍する真の国際人を育成することが、静商の未来を大きく切り開いて行くのではないだろうか。

私も静岡商業に学ぶ一人として、国際社会に目を向け、大きな志しを持って頑張っていきたいと思っている。

随論

静商生 グローバルな人間をめざせ

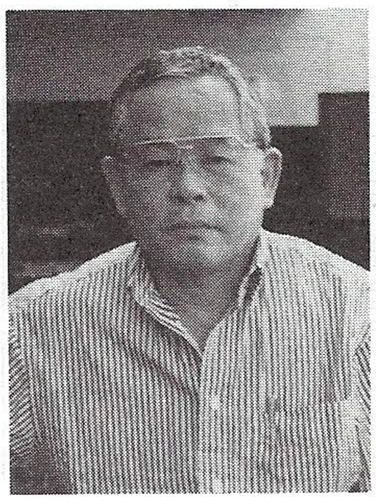
伊東越朗（27年卒）

昭和二十七年に静商を卒業し、職探しのため希望を抱いて藤浪同士と上京。

当時は、それほど就職難ということもなく、幾つかの会社に内定したことを記憶している。その中で語学が生かせる「日本ＮＣＲ」を選び、外人役員の秘書として入社した。

以来、六十才の定年まで色々な部門での仕事を経験したが、中でも最も多忙を極めた部署は財務企画部門であった。部門長として経営計画・販売戦略立案への参画、実施、予算編成、業績のレビューやプロジェクトによる特命業務の遂行など、東の空が白むまで働いた事が、今となって懐かしく思えてくる。

定年後は、一息する間もなくロジスティクス（物流）業務改革の命をうけて二ヶ年程在籍し、ＮＣＲでの四十四年間の人生に幕を閉じた。



この様に長年に亘り勤め得た要因は、精神論ではないが、高卒者であっても大卒者には負けないという気概を持ち得たことに加え、常に知識の吸収と勉強を怠らなかったことに他ならないと考える。又、外人役員との仕事上の議論においても、明確にＹＥＳ・ＮＯを言えることが次元の高いプロジェクトへの参画の機会を与えられ、多くの人との交流を通じ、知識の吸収と貴重な経験を持ち得たものと考えている。

その後は、ＮＣＲ在任中に関係していた或る運輸倉庫会社に転職し、同社の営業所の物流業務改革を手掛けた。これが最後の仕事かと考えていた処に、またまた米国での仕事の話しが飛び込んで来た。

中途半端な仕事を残しての離職には心苦しく思案したが、やはり夢をかなえることを前提に一年三ヶ月の在籍を経て退職し、ベンチャー企業である「シーネット社」にトラバーユした。

同社は、倉庫管理システムを開発・販売しているソフトウエア会社である。

入社日、即渡米という慌ただしい準備を終え、平成九年十二月一日に技術者（ＳＥ）二名と共に米国ウイスコンシン洲にある「マキュー・ソフトウェア・インターナショナル社」へ飛び立った。

渡米の目的が同社とのアライアンス（同盟）を組んでのビジネス展開と、拡大がキィーであったことから現地では、米国における流通と物流（ロジスティクス）についての最新情報の収集と、先端情報技術の習得であった。

このため毎日の技術面での講義では、畑ちがいの小職にとっては、何を説明されているのかを理解するのに苦労したが、技術者のサポートを得てなんとか修了証書を手にし、ほっとした次第である。

その後も、物流設備機器の展示ショーやフォーラムへの参加など、何回か渡米したり、又、商談のため中国（北京・上海・天津）への出張を重ねるなど、グローバルな人間への成長を目指し、努力しているのが今日この頃である。

一方、国内においては、今年は一流企業からの物流コンサルティングの引き合いが多く、五月後半からは某大手食品会社からの要請で、全国十五ヶ所の物流センターの業務調査、分析と改善提案を行うため全国行脚を予定しており、まだまだマルチ人間として積極的にチャレンジして行こうと考えている。

人生六十才定年で一区切り、第二の人生は、自分の趣味を生かして云々をよく耳にするが、小職の第二の人生は仕事に喜びを感じ、楽しく取り組んで行くことが信条であることから、身体の続く限り「剛健進取」の精神で続けて行きたいと思っている。

わが青春／わが静商

三つの出来事と寒稽古

天野八郎（14年卒）

それぞれの卒業期には、それぞれの思い出があるであろう。

私共にとっては、大きな出来事が三つある。

第一は駿府商業学校の吸収合併。

第二は城内より現在地への母校の移転。

第三は小谷校長に対するストライキである。

駿府商業との合併で起きたことは、両校の同期ボスと数名が、安部川の決戦をやった事である。

昔の喧嘩はちゃんとルールがあったから、死人や大怪我人が出た訳ではないが、参加した者はいずれも顔が大きくはれ上ったり、多少の傷はあったが、それ以来大きな争いはなかった。

学校の引っ越しは夏休みに行われ、生徒はその手伝いをさせられた。

新校舎の校庭は、風が強く吹くと砂ぼこりが立ち、先が見えない程ひどい事もあった。

沼津商業から転任した小谷校長は、気に入らぬ教師を次々と転任させ、二年間でその数は十八名に及び、校長宅を学友数名と訪ね話をしたが丸め込まれただけで、遂にストライキとなった。結局私共が卒業してから、校長は再び沼津商業へ格下げられて行った。

私の操行点は一学期・二学期共甲であったのに、卒業時の平均点は丙になったから、三学期の点は〇点以下をつけられた事になる。もう一つ加えると二・二六事件、当日は静岡にも大雪が降り、教師の一人がスキーを持って来て校庭で滑っていた。

授業は休講で自習、この自習担当で来られたのが宇山岩城先生であったが、間もなく陸軍幼年学校の教官として転出された。

私個人の思い出は寒稽古である。

朝六時開始、四〇分後に第二時間帯、七時三〇分より第三時間帯、八時一〇分より第四時間帯で終了は八時四〇分。

このうち、第三時間帯は列車通学者に割り当てられて固定。他の第一・第二・第四時間帯は通学地区が三に分けられ、夫々が日によって変動した。

私は四時起きし、前日母に作ってもらった握り飯とタクワンを持って学校へ行き、第一時間帯から終わりまで稽古し、五年間無遅刻・無欠席であった。

それでも無器用は致し方がないもので、選手にはなれなかった。たゞ卒業式では寒稽古皆勤賞・精励賞の賞状を代表して受け取った。それも操行点丙をつけた小谷校長からで、このときの校長の緊張した顔は今でも覚えている。私が何か仕出かすかもしれないと警戒していたのだろう。

平成十一年一月、卒業以来初めて静商剣心会の新年宴会に出席したが、同期前後を見回わしても稽古を続けているのは私一人で、人生をマラソンに譬えれば、他の学友はすべて途中で棄権、或いは死亡してゴールインしたのは唯一人。

正に継続は力なりである。

（剣道教士七段・横浜国立大学剣友会々会長）

何事にも気力が大切 気力で難事も克服!!

長谷川正二（昭和七年卒）

七月の定例総会は本部に先立っての母校創立百周年記念。この意義ある総会で私は後輩諸氏の活気に触れ、老いた心を若返えらそうと参加しました。

懇親会で、校歌を高らかに唱和したら母校の伝統が脈々と波打つのを肌に感じ、昔を偲ぶことが出来ました。

会が進み、ご馳走を口に後輩諸氏と談笑中、「はっ！」と気付きました。

私が卒業した昭和七年頃の、あの蛮カラで粗暴極まる言動が綺麗に洗い流され跡形もないのです。しかも皆さんが和やかな中にも礼節を弁えた応対で私を暖かく包んで下さった。

会場全体もまた清々しい。この良識、この雰囲気に打たれた私はしばし感慨無量でした。

これ程見事に校風が転化したのは、問うまでもなく男女共学が半世紀ともなれば、女性特有の優雅さと淑やかさが校風に浸透しているからと思う。これで、剛健進取の気概も堅持されていれば万々才。何より喜ばしい。ところが私は、年甲斐もなく場所柄もかまわずラフな格好で出席した軽率さが恥ずかしく、今尚、忸怩たる思いで縮こまっています。

（編集部からの蛇足―同窓会の集まりは、気軽に!!がモットーです。ラフなスタイル大歓迎です）

ために「お元気ですね」「ご健康の秘訣は」のお訊ねを、終始上の空で通し、誠に申し訳なかったと思っております。

依って私の健康維持の座右銘にした諺を以ってご返事に替えさせて頂きます。

「病は仕方無いが病気はするな

病気は文字通り気の病」

余りにも言い継がれた言葉で、知らぬ人とて無い諺で呆気に取られたでしょう。

しかし、広島で被爆放射能障害となるや、医師の義父が「もう無理はするな、何事にも無理はするな、無理は絶対の禁物」の忠告。

この二つの教えを忠実に守る為、老社長が若い私に一切任せてくれた会社を、人々から恩知らずと誹られても辞めました。

次は酒と煙草を順次断ち切りました。

それ程迄にと思われるでしょうが当時三才と一才の子の為、何としても死ぬことは出来ません。それこそ気骨を以って二つの教えを守り貫き通したのです。

お蔭で今は三人の子供も夫々一家を成し、六人居る孫が何れも成人式を挙げています。

そしてその間、第五福竜丸事件により、放射能で人が亡くなられたとのニュースにより、ようやく私への誤解と偏見が薄れ、やがて消えはしましたが、戦後無理禁物で殆ど仕事をしていませんでしたから、離れていた友と生活レベルに大差がついていたので差しのべてくれた手も振り切り意識的に身を退いていました。何故なら、交誼を復活すれば無理が伴うからです。

こうして、その後の私達夫婦は只ひたすら子育てに励んで来ました。

「核家族化」の風潮には目をそむけ、日本古来の「以和為貴」の家族制度を堅持したお蔭で、今では長男夫婦の庇護の下に親子から孫まで六人が肩を寄せ、労り合って明るく和やかに暮らしています。

この暖かい家族に囲まれて八十五才と七十九才の家内も老後の不安は一切ありません。

しかも、戦後数々の試練に耐え抜いて来た二人なので気力は充分身についていますから未だ／＼……。

要するに人生如何なる事態に遭遇しても、気力さえ確かならば如何なる難事も克服し、突破出来る。この事を身につけて下さい。

それが同窓生皆さんのご健康やご多幸の一助になるものと確信しています。

長谷川正二 御夫妻

『思い遣り』の眞心を

今の世に『思い遣り』が如何に大切かを年寄りの冷や水も構わず、私の所信として訴えてみます。

現在のわが国の荒廃した社会を、明治初期の恥を知り、礼を重んじ、人に富み、智を治めて家族相和したあの輝かしい〝有徳〟の社会に再現することです。

それには「徳を以って怨みに報ゆる品性」つまり、『思い遣り』の心を身につけた人を大々的に広めることである。

わが国の社会は、各自の価値判断に総てが任されている―自由民主々義だから―確かにそうです。

ところが、中には自由の名のもとに自分勝手の無責任な価値判断をする人が実に多い。それも亦、自由とするから社会秩序が乱れた。

しかしこの人達も又、社会秩序を乱し社会を混乱させることを改革の前提にしている〝ある党〟の目的に躍らされているのである。

何故かなら、既にご承知の通り、米国の自由民主々義による個人主義の解釈を悪用し、社会の人達の意志意見は全然無視させて、ひたすら自己主義を振り廻させられている。

この人達の思想に染まって行動する姿は、ある種の狂信的信者にそっくりそのままです。思想も又、狂信すると恐ろしいではありませんか。

その上、人間は誰でも生まれたとき持っているのは〝本能〟だけ、それ以外は言葉であろうが何であろうがその人の性格まで一切合切を親兄姉や親戚、先生、友達等、世の中で接した色々の人々から教えて貰っているのに、この人達は少しもそれを意に介していない。

更に今は暖衣飽食の世の中、身につけた物、口にする物、その他利用している一切の物は、総て見知らぬ人々の汗による賜物であることも意識にない。

ために、自分勝手が言いたい放題の無責任までぶらさげ、傍若無人に大手を振って世の中を闊歩しているのである。

ところが自意識が強いだけに、この人達がこの世の中は自分一人では生きられない、生きていけないことに気がつけば人にも物にも「有り難い！」という感謝の気持ちが誰よりも激しく涌きがってくるでしょう。

その感謝の気持ちが『思い遣り』になるのである。

人は自分だけで生きているのではなく

―人々のお蔭で

生きていける―ということのことを体得することが人生で肝心要のことなのである。

昔の短歌にも

「人の字は　互いに助け

立ち上がり

胸で受け止め眞心を拡く」

とある。

この眞心が『思い遣り』である

皆さんがこの『思い遣り』の眞心を生涯の伴侶にし合い、携えて、明るく和やかな社会作りに貢献なされたら、必ずや人も羨む寛ぎと安らぎに満ち足りた素晴らしい人生を迎えることが出来ますよ。

《間違いなく！》

以上が、今の社会に『思い遣り』の心が如何に大切かを訴える私の所信です。

私の体力増強　健康維持のお話

里見　勝　弘（24年卒）

誕生以来のヤンチャ坊主で、家に居ったら手が掛かり過ぎると、幼稚園に二年間も預けられ、運動会の度毎に、あの子がまた一等賞と呆れられたりした。

小学校では放課後数人の友達と、暗くなる迄鉄棒の自主トレに励み、休み時間にはドッジ・ボール、跳馬空中回転の練習と、勉強よりも、体を動かす方が楽しかった。

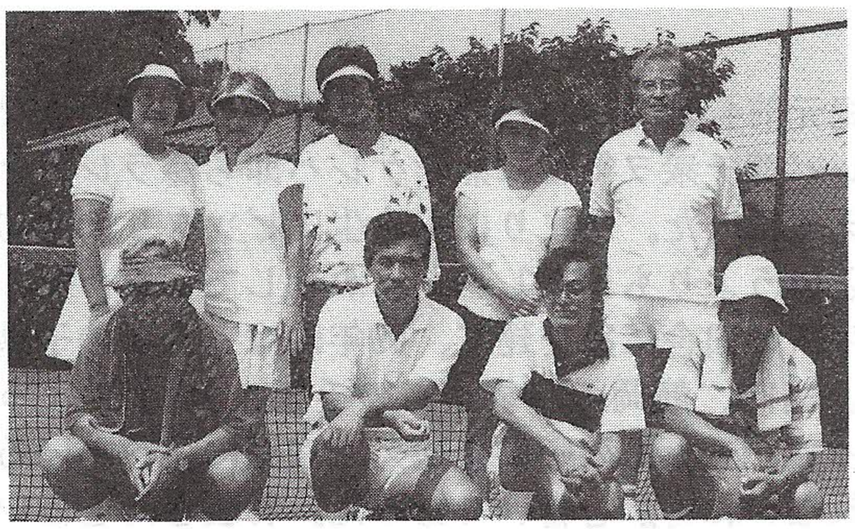
昭和18年静岡商業に入学。戦時中なので体操は諦めて、狙撃手になるべく射撃部に入部。連日一貫八百匁（約七キロ）もある三八式歩兵銃で伏せ撃ちの練習。時には弾薬盒を腰に巻き、銃剣を下げ、歩兵銃を担いで2kmの駆け足と、退部したくなる程しごかれたが、年に二回行われる実弾射撃訓練が楽しみで、必死に頑張った結果、肘の皮は厚くなり、腕は人一倍太く強くなった。

しかし、戦況は次第に厳しくなり、軍隊から実弾の入手が不可能となり、実弾射撃訓練は一回で中止。

軍需工場への動員で射撃練習は中止、終戦によって米軍の指示により閉部させられてしまった。

しかし、この経験は後日ニューヨーク駐在時、NY市の銃砲所持許可をとり、ライフル射撃に励めたのに大いに役立ったのである。

当時は本当に恨んだが、しごいて下さった射撃部の先輩方に大感謝。



115才以上の夫婦によるリーグ戦　後列右端筆者

終戦により、日本は大混乱、預金封鎖で日常生活もままならず、鳴かず飛ばずで、昭和28年入社した商社の本社大阪へ転勤。人のやりたがらない運動をと、腕力に自信があったので会社にはまだ無かった漕艇部を創立、桜の宮、中之島、土佐堀・堂島川でナックルフォアを漕ぎ廻り、張切り過ぎてギックリ腰から座骨神経痛となり、だましだまして20年。

昭和48年ニューヨーク駐在、次にインドネシア駐在と57年夏帰国するまで無事健康で過ごせたのは、若い頃からの体力増強に努めてきた賜物と思っている。

帰国時検診により、不整脈が発見され、これは一大事、なにか運動をしなければと、二年程前から家内が始めたテニスに合流。

最初は思う方向にボールは飛んでくれず、何処へ行くのかボールに聞いてくれという有り様。

ラリー5分程でクタクタとなり、歩くのもままならない状態。これではテニスにならないと、テニス・スクールに入学し基礎から勉強、一年程でテニス・クラブに入会を許されてから既に約10年、家内と共に週三～四日はクラブに通い、大勢のメンバーとプレイに励んだ結果、今では6ゲーム先取(約30分)マッチを、一日に5～6回プレイする事が出来るようになった。

クラブには十数組の夫婦メンバーが所属しているが夫婦でペアを組む事は尠ないようである。他人ペアの場合はお互い許せるミスでも、夫婦ペアとなるとそうはいかない。

夫婦間の揉め事に発展する事も無きにしも非ず。

従い、私共夫婦は一緒にプレイする時は、対戦するようにペアを組み、お互いに日頃の鬱憤をぶつけ合っているが、悔しいけど家内の方が一寸強く、私がヤッツケられる事が多い。

鬱陶しい旦那をヤッツケて家内は胸をス～とさせている様だ。これで家内のストレスが解消されているのなら大いに結構。

だけど私のストレスはどうなるのだ！

現在は、少々息切れはするけれど直ぐに回復、血圧は正常、不整脈・持病の腰痛はいつの間にか何処かへ行ってしまい、健康状態は勿論、精神状態も夫婦共に頗る良好　夫婦仲は至って円満だ。健康保険は専ら整形外科のみ。

私は生れつきアルコールを受付けない体質なので、酒類は一切駄目。梅酒の梅を一個食べても顔が赤くなり、ホロ酔い状態。

しかし、食欲は旺盛で、朝から天麩羅でもステーキでも、豚カツでもO・K。

クラブには喜寿に近い方も数人居られ、還暦過ぎた方々、古希に近い方々、夫々自分の体力に合わせて、元気にプレイされている。

私もその中の一人だが、ただ、若い頃からテニスを始めていたならば、もっと強くなっていただろうに、とチョッピリ悔やんでいる。

でも、まだまだ五十才代の人には負けないぞ。

それから、あと十年は健康維持のために、テニスを続けるぞ。

専門部会　新たに10年部会が組織されました

「１００年から１０年へ」

10年部会　鈴木晧介（36年卒）

昨、平成十年は、母校の創立百周年を皆さんでお祝いすることが出来、ご同慶の至りです。

関東支部も皆さんの、これ迄のご寄付に依る積立金の中から一部を、本部百周年事業の目玉である「育英基金創設」のための募金に寄贈させて頂く事が出来ました。

これも偏に日頃の皆さまのご支援の賜物と厚く御礼申し上げます。

さて、今年から母校は百一年目を歩き始めたわけですが、わが関東支部は、平成三年の創立から数えて来年満十年を迎える事になります。

以前は十年ひと昔、などと申しましたが、移り変わりの速い世の中、五年・三年ウッカリすると、一年前の事でも、過去の彼方へ忘れ去られてしまいかねないご時世です。

又、一方で自分自身を振り返りますと、誰かが、いみじくもおっしゃった「何もしなくっても年は誰だってとれる、年のとり方が難しいんだよ。」という言葉が思い出されてなりません。

そこで、関東支部が十年を迎える節目に当たって、常任幹事会として、百年部会を十年部会に改めて対応を考えさせようって事になりました。

（何も巻き舌ンなる事はないんですが…）

とは言え、私如きボンクラ頭では、仲々良い案も出ませんので、此処は一つ皆さまから広くご意見を頂戴致したいのです。

☆テーマは二点にします。

① 来年十周年のお祝いとして、どんな催事をやったら良いか。

例えば・講演会(希望講師)
パネルディスカッション
座談会・観劇会

② 今後関東支部として取り組んで欲しい事。

例えば・支部資料整理編集
新規同好会作り
ボランティア活動
サークル活動
インターネットのホームページ開設
等々何でも結構です。

－下記の宛先へ－

郵便又はEメールにて
ご意見を賜わりますよう
お願い申し上げます。

〒247-0002
横浜市栄区小山台2-34-30
鈴木晧介

(E－mail address)
fwin1537@mb.infoweb.ne.jp

しいか？
人交わり～

小西文男（34年卒）

酒という次第に相成る。好むと好まざるとに拘わらず、これを35年間もやって参った。

三十代は勿論、四十代になってもイキがって仕事していたが、それも所詮「人交わり」、将に酒に明け暮れた。理屈に強くなくてはいけないし、実行もなければいけない、その上に酒だ。五十代となって聊か疲れ、六十近くなったらもう嫌になってしまった！こうなりゃ辞めるしかない。

人交わりも、昭和60年からゴルフがプラスされることになった。あんな下らないものはないと思っていた小生が派手なシャツ・帽子でクラブを振る、これが上手く行く訳がない。楽しくもない。だから、その頃から引き受けたＳＣごるふ同好会でも皆さんに迷惑を掛ける羽目になってしまう。

小生の場合、酒を呑むのとゴルフは一蓮托生なんだ。あんな小っちゃいボール、どう打ってどう穴に入れようと、終わった後の酒が狙いなのである。そうこうする内、大昔の仕事の親分を囲む会の纏め役をやらざるを得ないハメとなり、これが全国に散らばっている連中相手のシゴトだから大変、結局泊りがけのゴルフをやる。酒にもなるという仕儀にもって行った。この集まりは何んであろうか？

山路さんという一種のカリスマを囲んで皆喜んでるわけだから、明治十年の西南戦争で有名な、あの西郷隆盛の“私学校”に因んで「山路学校」と命名した。さしずめこちとら桐野利秋の役回りか。

総勢七十名で蜂起して悪い日本政府をやっつけてやる、なあんてことはしない。只々集まってはゴルフでじゃれ合い、そして酒を呑んだりする訳だ。集まる顔ぶれも七十歳から四十歳の大人というか、爺い揃いで、いやもううるさい限り、静岡商業・関東支部と似たようなもんだが、違うのは嘗て同じような仕事をしていた者同士という関係があるから、お互い家族というか親戚というかそんな意識が強くて、誰がリーダー、あっちが主導権を持つなどということがない。地域別、仕事の流儀別に各グループが出来ていて、グループ毎に実に楽しそうに交わるのである。近年などは肝心の親方が『君達は何故こうやって集まるんだ？』と僻む始末、正直言って爺さんをダシにして、昔仲間がワイワイ集まるんであって、親方はそこに居てくれりゃあいい。九州から飛んでくる者、茨城の北の方から駆けつける者、皆勝手に楽しんでいる。

学校だから用務員を三人置いているが、小生はそれを取り締まる「用務員室掛」を名乗っている次第であります。結局の処、仕事関係の人交わりの世界なんだ。

おもえば「人交わり」でここまでやってきた‥‥そして疲れてしまいました。なんだか遺書を書いている気分になってきた。それにしても出来の悪さよ！自分自身に愛想が尽きる。

昭和56年に会社の位でいう副参事というものに昇格したとき、餓鬼の頃の上司だった方から色紙を頂いた。

右のようなことが達筆太字で書かれていた。

寛即得衆
恭即不侮

孔子という紀元前4,5世紀のおっさんのお言葉なんだそうな。

ココロ寛ケレバ即チ衆ヲ得ル、恭シケレバ即ち侮ラレズという読みも教えて頂いた。あまりにも小生にピッタリの文句で、有り難いというよりも、むしろがっかりしてしまった。

昭和46年に牛久の田舎に家を建て、49年には三人目の子供、娘が生まれた。当時、静岡のお袋からの手紙、『お前のような者が家を持って、三人もの子供を抱えて立派に食べているなんて信じられないねぇ』と書いてあった。お袋さんとはいえあんまりだと思ったが、カミさんに訴えたら、『仕方ないじゃないの、私もこの間頼みますねって頭下げられたわよ』とぬかしゃがる。極く最近はカミさんがお袋のように思えてきて、毎日甘えている始末だが、小生が録りに録った映画のビデオテープが家じゅうを占拠する状況になったら、『どこか近くにアパートでも借りて、テープと一緒に出て行ってくれない』と冷たい。ここで奴に見放されるのかと思ったら情け無くて、いっそ会社も辞め、家事に専念しようかと思うようになつた。

長い間干支というのがよく判らなかったが、年賀状を書く時にカミさんに教わってやっと十二の順番も理解するようになった。

処が最近本を読んでいて干支の他に「じっかん〔十干〕」というものがあるということを知った。

明治維新の時の国内戦争を戊辰戦争と呼ぶのは1868年という年が〈つちのえたつ〉の年なんだそうだ。十干の五番めがつちのえ〔戊〕で、即ち戊辰、ぼしんと呼ぶ。小生辰年だから、なんという辰年なんだろうかとメモ用紙に明治元年戊辰を軸に表を作って計算してみたら、私は「かのえのたつ」〔庚辰〕運は良い方なんだ！干支では辰だけが架空の動物で、つまり縁起が良いと言われている。

十干と干支の組み合わせで、六十年で暦が一廻り、つまり「還暦」ということなんだ。考えてみりゃ、昭和15年というのは皇紀2600年という目出たい（当時の日本の景気付けだが）年なんだ。因みに、小生の生年の前後の辰年を調べてみると昭和3年は東京はお茶の水に聖橋が架橋されており、まあ良い方だが、大正５年にはイースター蜂起という悲しい事件が起こっていたり、明治37年には日露戦争が始まっている。こっち側へ目をむけると、昭和27年には羽田発日航機「もく星号」が、三原山におっこって、大辻司郎が亡くなった年、昭和39年にはあの新潟地震があった。つまり、あんまりいいことは無いようだけれど、これが我が「かのえたつ」となると明治13年、文政３年、宝暦10年、元禄13年と、とりたてて悪しき事件は見あたらない。結構じゃないの、とこの牽強付会に自身悦にいっているのだ。

そして、こゝ２年３回もやった内視鏡検査も『あるある、一～杯あるう』と喜んでいたポリープ切りが上手い外科医の先生の期待を裏切って、組織検査の結果は良性なんだ。

そしてそして来年は紀元2000年、かのえのたつ年、小生にとっての還暦、会社リタイヤが待っている。

人生は楽しいか？と山口瞳さんは書いていた。小生反対に「人生は苦しいか？」と題してみたものの、これは間違いだったらしい。“黒い”の反対は“白”だけが答えではない。“黒くない”というのもある。「人生楽しくも、苦しくもない」というのが小生の結論だということにやっと辿り着いた。

人生は苦
～仕事と酒と

人〔ホモサピエンス〕とは、何と様々に物事を考えてしまうものなのだろうか。人、その一握りの人達の集まりが生活或は人生というものであるのに、色々と悩ましくも考えることが多い。人夫々に人生があり、つまり我が(？)ＳＣ関東支部に於いても同じようなことなのか。

これは拙くも日本と日本人についての論文の心算りなのであります。〔冗談！〕

先ず、「酒」のことから考え始める。

中村副支部長から《書け》と言われて、会社の若い同僚達と酒を飲みに出掛けた。どういうことを書くかを相談する為だった。〔こうして何でも酒の理由にする、悪い癖だ〕

『とにかくオジイタマは暗いんだよ。もっと明るくなくっちゃ』と批判された。

『だから悪酔いして奥さんに絡んで、そいでもって嫌われるんですよ。人生不幸だと思うよ』、私思わず叫んだね。

『るッセエ！』、『人間明るいに越したことはないが、“単に明るい”ってなあ阿呆ってえことだ。てめえがそのいい例だ』。

私はこの15年来の仕事付き合いの五十男の丸くて明るい顔を眺め乍ら、深く自分を反省していた。素直に。

どういう訳か映画が好きで、子供の頃から随分と観てきた。ビデオ・テープという便利なものが出来て、こゝ20年来映画を録画し続けてきたのが、既に3000本を超える。採るばかりで観ない、と馬鹿にされているが観ない訳でもない。心に余裕の有る日などは、これという映画を観る。先日WOWOWが放映して呉れた「先生のお気にいり」を観て、酒に関する素敵な場面があった。

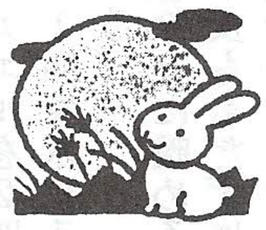
クラーク・ゲイブルが恋の競争相手のギグ・ヤングのアパートを訪ねて『マーティニを飲もうよ』と作る場面、先ず大きめなグラスにドライ・ジンをばガバガバッと注ぎ、ベルモットの瓶を受け取りコルクを抜いて、そのコルクをグラスの縁に擦り付ける。これでベルモットを配したという、何とも強烈なるマルティニの出来上がりなのだ。マーティニは本来ドライ・ジン3に対してベルモット1という配合なのが普通だが、強めが好きな向きは7対1とする。

これをドライ・マーティニと呼ぶ。(大袈裟だね)アーネスト・ヘミングウェイという作家は格好を付ける癖があるが、作中出てくる或る大佐は戦に出る際にテントの中で呑むマーティニは、なんと17対１なんだそうで超ドライってことになる。将に格好いい。ところが、格好のわりい小生の呑る奴ときたら、100ccくらいに対してベルモット数滴たらす程度だから、100対４、即ち25対１だ。これはもうマーティニとは言えないのではないかと思っていたが、クラーク・ゲイブルを観るに及んで『負けた』と思った。流石ゲイブルである。

仕事で茂原市の工場へ出張し、夜工場の連中と飲んでいたら、小生を深く尊敬している若い課長さんが発言。『小西さんにゃ気を付けた方がいい。水割りのグラスに水をついで上げようとすると、薄くなるって目が三角になるから』、そうしたら、小生のことをもっと尊敬している奴が『そんなの可愛いもんですよ◇▽さんはねオンザロックの氷だけでね、水を見ると目が三角になるんだ』と庇ってくれた。すると別の関係のない奴が『◇▽さんはまだいい方ですよ。○○さなどは氷を入れて上げようとすると、余計なことするなって怒るんだから』上には上があるもんであります。

クラーク・ゲイブルを持ち出したのは、この映画で彼が演じている大新聞社の社会部長が、バリバリの遣り手で、しかし無学歴という設定、この彼がドリス・デイ扮する大学教授に惚れたところから恋の悶着が始まるというストーリーだった。やはり学問は必要だ、俺は彼女にそぐわないなどと悩むんだが、勿論最後はハッピーエンド。だから映画の場合はいいけれど、小生などこれで永年悩んできたものだ。

その頂点に差し掛かって、とうとう継続社員などというシロモノになっちまった。



阿呆らしい、もう辞～めたという状況なんだ。

昭和34年、高校を卒業して東京に就職した。というのは、今反省してみると間違いだった。小生のは就職にあらずして「遭職」でありました。

平成２年、長男が茨城県立利根町中学に就職した。本人に言わせると『俺のは奉職したというんだ』とのこと。そうか、聖職の碑、鶴田浩二だなと思ったら、じゃあ小生はなんなんだ、高校を出る頃から世に出て働くなんて気は更々無かった。只人様並みに何処かへ勤めるかと何んとなく会社勤めに入った。こういうのは「職に遭遇しただけ」というものだろう。

無学歴で随分嫌な思いをしてきたが、会社の方だってこんなタチの悪い輩を雇って割に合わなかった筈だと思いやれば、悪いから早いとこ辞めようかしらんと思うのが、小生のまた良い処、決して潔い訳じゃないけれど、面倒なのは嫌だ。

小生が会社勤めを始めた昭和34年というのは、サラリーマン元年になるという朝日新聞だったかの特集記事を５年位前に読んだことがある。無論そのズッと以前から会社員というのは存在していたのは確かなことだが、昭和34年あたりから猫も杓子も月給取りになったんだろう。その特集記事にも田舎のお百姓のご両親が『伜がなんだか今度出来た工場に勤めるようになって、毎月キチンと給料を貰って来る。信じられないような有り難いご時勢だ』と言っていたというくだりもあった。本当そうだなぁ、俺も何もせず喰うだけではあったにせよ、ウダウダとここまで来た。案外ワリの良い生活、これがサラリーマンってえものか。すまじきものは宮仕え、というあの宮仕えとは違うのだ。人間は「取りあえず生きて行かなくてはならない」のだが、その為に仕事をしてタツキを得るだけのこと。人生観などもヘッタクレもない。

山口瞳のエッセイに「人生は楽しいか」というのがあった。酒を飲み過ぎて、粗相をしてしまい真夜中自宅の風呂場でパンツを洗う男もいるそうな、人間・人生必ずしも楽しい訳じゃない、というのが結論だったように記憶している。男は好きで呑んだくれているんじゃなく、仕事の延長みたいなもの、それが一般サラリーマンだった時代が長い。

さて、問題はその仕事である。あくまでも小生は特異な仕事・立場であったようだが、製品のコスト低減をやるという因果な稼業を続けてきたので、仕事といえば、即、人交わりということになってしまう。そうすると、どうしても

ジョークサロン ヒライ信

平井幸雄（36年卒）

大人の遠足

高校時代の同級・同窓会が、3月に連続あった。

このところ、歳頃なのでしょうかこの種の集まりが多い。

一昨年私の発案で行った「大人の修学旅行」が好評で昨年は「大人のキャンプ」、そして今回は「大人の遠足」である。「大人シリーズ」が定着した。

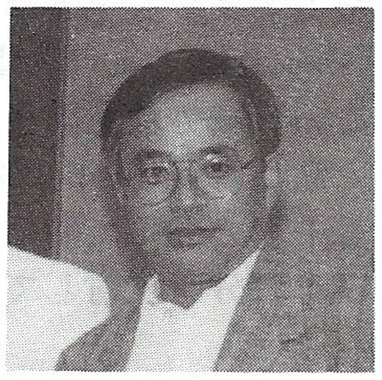
単に集まって飲んだり語り合うだけでなく、毎回趣向を凝らした、大人になってからの子供・学校時代の行事は、2倍楽しく、おもしろい。

昔を懐かしみながら、今を見学する、何十年の時代の流れをタイムトリップする。小学校や高校時代ではできなかった酒が堂々と飲める、自腹で美味しい料理が食べられる。

大人だからできる楽しい集いだ。

今回は、高校時代26HRの同級生が町長をやっている、静岡県・金谷町に、彼の行政手腕を評価する「大人の遠足」であった。

彼の計らいと、彼が自らガイドしてくれて、楽しく、ためになる、すばらしい遠足であった。



町民の一人一石運動で復元された「金谷坂石畳」街道、お茶の産地「牧之原台地」そして一杯のお茶からはじまる、一期一会のお茶の出会いを大切に、復元・保存した博物館「お茶の郷」をハイキングした。

町・郷土を大切にした町づくり、お茶の文化のグローバルな広さと奥の深さに滅茶苦茶に感動した。

加えて、この遠足のために天が味方したのか、晴天に故郷の日本一の「富士山」が、出迎えてくれて世界一の「遠足」にしてくれた。

変える＝カエル（蛙）

春になった。

池や田んぼのおたまじゃくしが蛙（カエル）に変える（カエル）蛙に変身する。

そのカエルを2匹取ってきて、1匹を水に入れた鍋に入れる。

鍋を徐々に暖めると蛙は何の不安ももたずに、心地よく鍋の中にうずくまっている。いつでも逃げ出そうと思えば逃げ出せるのに、温度が上がっていっても、何の変化意識ももたず高温になっても気づかず、やがて沸騰した湯の中で茹で上がって最後は死んでしまう。

今度はもう1匹のカエルをその沸騰した湯の中にいれると、そのカエルは必死で鍋から飛び出してしまう。

そのカエルは火傷はするかもしれないが死なずにすむ

前者の蛙のことを「ゆでガエル」という。

世の中も日々刻々と変化しているが、小さな変化だとその変化に気付かず、われわれも「ゆでガエル」のごとくになってしまう。

カエルの天敵のヘビも、「脱皮できないヘビは死ぬ」というように、自分の衣（殻）を破って着ガエル。蛙もヘビも冬眠から覚めて、小さな変化ではなく、ここでも「大きく変身」する。

『サァーサァお立会！御用とお急ぎでない方はゆっくりと聴いておいで。

サテお立会！ここに取り出したるは「陣中膏ガマの油」ガマと申してもただのガマとガマが違う。

筑波の山の麓に生息するカエルは「四六のガマ」と申しまして、前足の指が4本、後ろ足の指が6本。

このガマを四面鏡張りの箱に入れると、ガマはおのが姿の鏡に映るを見て驚き、ターラリターラリと脂汗を流す、これを3×7＝21日の間トローリトローリと煮詰めましたるが、この「ガマの油」。

サーテお立会！このガマの油をオタマジャクシに塗ってみると、アーラ不思議？いろいろな蛙に変身する。四六だから46種類のカエルに変身した。

ご覧あれ！？』

あいうえお順に並べてみました。46＋4＝50に増殖してしまいました。

あきれかえる	変化の速さに呆れ返る	いきかえる	リストラされても生き返る
いいかえる	CHENGE を言い換えるとCHANCEだ	うえかえる	大きく育つよう植えかえる
おきかえる	お客さまや相手の立場に置き替える	かかえる	問題をたくさん抱えるな
かいかえる	新しいものに買い換える	かんがえる	今、何をすべきかを考える
きがえる	自分の殻（古着）を着替える	くつがえる	自分の提案が覆るとも粘り強く
けしょうをかえる	化粧を変えて変装、変身、変心	こむらかえる	緊張するとこむらがえるリラックスに
さかえる	いつまでも若々しく会社が栄えるように	しょげかえる	静まりかえるなしょげかえるな
すみかえる	ヤドカリのごとく大きな殻に住み替える	せきをかえる	席を替え、世界を変えると新しいものが見えてくる
そっくりかえる	そっくり返るとひっくり返る	たてかえる	家を建替えるだけのお金を誰か立替えてくれ
ちちかえる	父権を取り戻そう	ちがえる	他と違える特徴を出そう
つかえる	使える奴は仕える、支えるぞ	つみかえる	積み替える前に中身を詰替えよう
てをかえる	小手先でなく、抜本的な手を変える	でむかえる	こちらから、積極的に、相手を出迎えよう
とりかえる	ギブ アンドテイクで取替える	なまえをかえる	名を変えるだけでなく実を変えよ
にえくりかえる	煮え切らないより煮え返る人	ぬりかえる	色々な色に塗り替えてみよう
ねがえる	寝違えると首が痛い、寝返ると首が飛ぶ	のりかえる	乗換先を間違えると行先が？
はりかえる	表面だけ張替えても……	ひかえる	出過ぎたら控える。でも引き帰るな。
ひるがえる	翻って考えてみることも	ひっくりかえる	上下、左右、表裏ひっくり返って逆転の発想
ぶじかえる	安全と健康第一今日も無事帰る	ふりかえる	後や過去も時々は振り返る
へんじがかえる	ハイと元気な返事が返る	ほかにかえる	他に変えることの出来ない独自なコア技術
まちがえる	間違える、誤りを認める度量の大きさ	みちがえる	見違えるほど大きく変身
むかえる	相手の気持ち、意向を受入れる、迎えるCS	むせかえる	あまり強烈すぎると噎せ返る
めしかかえる	召し抱えるだけの甲斐性をもて	もちかえる	仕事を家にもちかえるな
やりかえる	やり直す、やりかえると時間の浪費で痩せガエル	ゆでがえる	ぬるま湯、マンネリ化がゆでガエルの温床
よみがえる	黄泉から帰るから蘇る。生返った積もりで活力を蘇らそう。	わきかえる	激しく燃え、熱狂するほど、沸き返る
われにかえる	自分を忘れずにハット気づいてわれに返る	1(エル)かえる	小文字の1か大文字のL Largeだ

海外紀行シリーズ ②
ガリラヤ湖のほとり

望月鉱一（29年卒）

ガリラヤ湖は海面下二一一米、水深五四米、南北二一粁、東西一三粁、竪琴の形をしたイスラエル最大の淡水湖である。

湖岸にはカペナウム、タプハ、マグダラ、ゲネサレなどイエスに馴染みの深い町があった。

―キリスト教はガリラヤ湖の賜物である―

二月に、この湖を訪れた時の私の印象であった。イスラエルを一周し、その四ヶ月後シリア、ヨルダンを旅してこの考えを確信するに至った。

ナイルなど一、二の大河流域を除けば西アジアのほとんどは砂漠である。

自然条件の厳しい中、ユダヤ教、キリスト教、イスラム教など一神教の宗教が興った。

神ヤハウェは、予言者モーゼを介してユダヤ人と、律法遵守を条件に彼等の神となる契約を結んだ。

イスラエル北部―ガリラヤ地方やエズレル平原などは、西アジアでは例外的に水資源と沃土に恵まれている交通の要衝でもあったから、ここはイエスの時代も人口が多かった。

当時はローマ帝国の東端の属国であったから、物心両面で帝国からの圧迫を受けた。

又、貴族や僧侶階級の課す重税に人々は苦しんだ。

イエスは一世紀初頭に、ガリラヤ地方で二年程福音の宣教活動を行った。

それは、昔の予言者たちが予言していた「神の国」が到来したことを告げるものであった。

「神の国」に入るためには、ユダヤ教の煩瑣な律法を守る必要はない。

「神の愛」を信ずれば足りるとし、貧しい人々を救うために、イエスはユダヤ教の安息日や食事など、儀礼的な律法を大胆に破って行動した。

それが、ユダヤ人とイエスが対立した最大の原因であり、その結果、磔刑によって殺された。イエスは漁民などを弟子とし原始キリスト教を根付かせた。

二月初旬の早朝、私はキブツ（農業共同体住居）から起き出し湖畔で深呼吸をした。

湖は青く澄波はひたひたと岸を洗っていた。

桜に似た満開のアーモンドの白い花が朝の光の中で揺れ、ブーゲンビリア、アネモネ、あざみの花が甘く匂い蜜蜂の羽音が聞こえた。

〝幸いなるかな、心の貧しい者、天国はその人のものなり〟

いわゆる山上の説教の冒頭の一句である。

昼近く私はこの場所に立ち周囲を眺めた。のびやかに稜線が連なり糸杉や椰子の木が茂っていた。湖面はきらきら光っていた。

数日間ネゲブ砂漠や死海など荒涼たる風景を見て来た私の目には、湖畔は「天の国」に見えた。

同時にそれは今迄目にした七堂伽藍―バチカン、アッシジなどよりも胸を打つ懐かしい風景であった。

親睦会のお知らせ

今年の親睦会は次のようなイベントを計画しています。お楽しみに！

① ジャズ演奏会
　スタンダード・ナンバーをはじめ、チャッキリ節など。

② ビンゴ・ゲーム
　景品には、島田・清水屋の銘菓「黒奴」などを用意しています。

③ 出店と土産品の販売〈郷土の名産品〉
　◇ハンペンのフライ
　◇桜エビ（カキ揚げ）
　◇ワサビ漬　等々。

④ 静岡新聞掲載の、100周年記念記事「波メロディーを奏づれば」を製本の上、出席者全員に配布の予定。

（三共綜合印刷㈱からご提供）

健康　豆知識シリーズ ①
若さと健康を保つために
“油と脂はどう違う？”
“活性酸素とは”

栗田裕夫（35年卒）

油は液状、脂は固形。油はサンズイですからわかりますが、脂はニクズキに、「旨い」おいしいアブラなのです。このように、油と脂は同じアブラでも性質が違います。脂は動物、牛・豚・鶏・バターなどで、油は植物性の油、大豆・天麩羅油・サラダ油がそうです。魚のアブラも油です。一日に脂と油を、それぞれ30ｇづつ食べるのが上手な食べ方です。

アブラは飽和脂肪酸と不飽和脂肪酸と二つに分けることが出来ます。

油の方には不飽和脂肪酸が多く含まれ脂の方には飽和脂肪酸が多く含まれています。

ここで問題にしたいのは植物油の方、**不飽和脂肪酸**です。昭和50年代にはリノール酸が体にいいというので、もてはやされましたが、これはリノール酸の一つです。

ところが、’81年に米国立ガン研究所が、植物性油を取り過ぎるとガンの発生率が上昇する、という研究を発表し衝撃を与えました。

不飽和脂肪酸は、これが酸化すると壊れやすい、という欠点があるのです。その酸化の引き金になるのが実は酸素なのです。

鉄を錆びさせるのも酸素、体を酸化させるのもの酸素、この悪役の酸素を**活性酸素**というのですが、これがガンだけでなく、その他の成人病や、老化などにも深い関係がある、という事が分かってきました。

活性酸素と、不飽和脂肪酸とは大変相性が悪い、という事がお分かり頂けましたか？。

しかし、ご安心ください。

この悪玉の、活性酸素を〝まあまあそんなに暴れないで〟と、おとなしくさせてしまう凄腕の毒消し屋が私たちの体の中にいっぱい見つかっています。

それは、ビタミンEと、ビタミンCです。

緑黄色野菜に沢山含まれています。

それにビタミンB2、これが酸化された不飽和脂肪酸を分解して外に出す仕事をしています。

太陽光線や、ストレス・激しい運動をした時なども活性酸素が増えます。

あまり激しい運動は考えものです。早歩き、ゆっくり水泳などがお勧めです。

あまり大量の活性酸素にさらされますと、私たちの体はバンザイしてしまいますから、日頃からビタミンE・C・B2をとって、不飽和脂肪酸の酸化を防止することが大切です。

〝ちょっと年かな〟と思うようになったり、よく運動する人やストレスの多い人は、特に必要です。

ここでちょっとコマーシャル。

三共からビタミンB・C・E製剤〝ビトンハイ〟が発売されております。

緑黄色野菜を大量に取ることが面倒な方は、まず服用してみてください。

近況報告

「目下実験中」

坊野 清之（35年卒）

別に「寄らば大樹の陰」と思ったわけではないが、学校を出て、大手都市銀行に入り、主として貸付畑を歩いたが、今はやりの「貸し渋り」とやらをしたことは一度もない。

小生、血液型は少数派のAB型で生来のグータラ、加えて、人が右というと左と言いたくなる困った性格、上司や同僚とよくやりあい組織内では落第生、あまり偉くもなれず、55歳近くなって、はて？このまま、大組織の中での飼い殺しは御免だなと思っていた。

その矢先、以前勤務していた支店の或取引先から、「うちに来ないか」と声がかかり、平成九年五月末、33年余勤めた銀行を惜しまれて（嘘!?）退職した。

退職後まもなく、バブルのつけがまわり、金融関係全体が鳴動し始め、大失速したのはご存じの通り。「お前は先見の明がある」と誉められたり、「逃げたな」と貶されたりしたが、小生自身はそんなに深い読みがあったわけではなく、単に偶然の巡り合わせにすぎない。

新しい会社の業種は環境関係、仕事は端的に言えばオーナーへのご意見番。

結構面白かったが、オーナーはさぞかし煙たかったのだろう、意見の相違が、段々と感情的対立にまでエスカレート、所詮、中小企業では絶対者であるオーナーに勝てるわけもない。昨年末オーナーと一戦した揚げ句、入社から一年八ヶ月経った本年一月、当方から申し出て遂に退職することとなった。

幸い、銀行在職中に、社会保険労務士・宅建・CFP（ファイナンシャルプランナー上級）等の資格を取っており、ぼちぼちその方面の仕事――年金主体の原稿執筆・講演・講義・テレビ出演等々――もこなしていた。

経済的な不安はあるものの、暫くは「フリーランス」の生活を覚悟していた処、捨てる神あれば拾う神あり、ずっと交友が続いていた昔の取引先の社長が、小生のことを心配して声をかけてくれ、僅か五日間失業しただけで、三度目の勤務とあいなった。

今回は、中小企業のメーカー（フェルト製造）で、仕事は前回と同じご意見番。

仲々微妙な役回りだが、社長の厚情に報いる為にも、何とか良い仕事をしたいものだと思っている。

但し今回は、小生から社長に我儘をお願いして、週三日の勤務にしてもらった。残りの二日、土日を含めれば週四日は上記「フリーランス」の仕事をもう少しやってみたい、と考えたからである。

結果として、二足の草鞋を履く（本業は、勿論サラリーマン）ことになったが、五十代後半の小生にとって、これは一つの実験だと思っている。

小心者でサラリーマン生活が長い小生には、いきなり独立してやっていく事は大いに不安があるし、自信もない。この年で、成算のない跳躍はもう出来ない。安全運転がよい。

週三日、組織内で仕事をし、基本の生活費を確保しその上で二足目の仕事をする。やがて年金受給年齢に達すれば、それを生活の資として「フリーランス」に徹する。

そして目標である「生涯現役」を全うしたい……というのが小生のこれからの大雑把な人生図式である。

はてさて、予定通りうまく行くのかどうか、今後のお楽しみ。

実験は、今始まったばかりである。

一回こっきりのやり直しのきかない人生、絶えざる研鑽に心掛けつつ、のんびり、且つ楽しく、そして精一杯生きるつもりである。

「転機」◎

冨井 直希（36年卒）

関東支部に参加させて頂いてから4年目に、人生の転機を迎えました。

入社以来三十四年勤めた会社を退職し、郷里に帰る決心をしたのです。

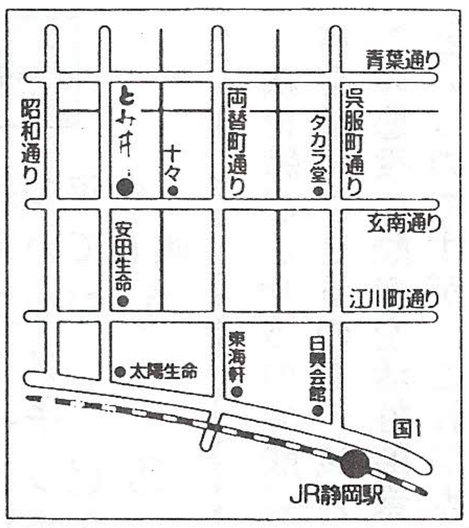
私と同じ世代は、大なり小なりこの転機を迎える時期にさしかかり、各々その将来の生活設計を真剣に考えていると思います。

私の場合は、両親が老いて来た事と相続問題に対処し尚且つ、家族一緒に今後の生計を立てて行くには、どうしたら良いかを総合的に考えた結果でした。

先ず第一に、長い間自分の天職と考え、全うした旅行関係の仕事を完全に切り捨てる事は多分出来ないと思われる為、会社に願い出て、今後も仕事が出来る様に計らってもらいました。新生活が落ち着いたら又、旅行の仕事を再開したいと思っています。

次に、在職中に有限会社を設立し、銀行からの融資を受け両親名義の土地（住宅を取り壊し）に会社名義のビルを建てました。

そのビルの一階に直営の和食の店「とみ井」、二階をテナントとして貸し、三階にやはり直営のイタリア料理店「アクアヴィーテ」を、そして四階は両親の住まいと事務所を置きました。



今迄の仕事は、時間も不規則でかなりハードな状況でしたが、新たに始めた仕事も思った以上に厳しく、総務・経理・業務全て一人でやっており、朝十時から夜十二時迄日曜日以外全て出社しています。

和食は妻が、イタリアンは娘が責任者として担当しております。

皆様静岡へお越しの折りは、どうかお立ち寄り頂きたいと思います。

経営は一応大過なく行っておりますが、財政的には、中々思いどおりに行かなくて苦労しています。

帰郷後は、三六会の同級生と会う機会も増え応援して頂いております。

百周年も地元で祝う事が出来、感激致しました。

関東支部の同級生ともその後引き続き親交を頂いており、時々集まる折りには呼んで貰い、旧交を暖めております。

この一年で、色々人生の曲り角を迎えた人が居りましたが、皆様どうか良い第二の人生を歩んで頂きたいと願っております。

今後とも同窓生、先輩、後輩の方々との人と人との繋がりを大切にし、《立ち入り過ぎず離れ過ぎず。》をモットーに接して行きたいと思います。

インフォメーション

同期会からのたより

三十六年卒　熱海に集合

お久し振りと挨拶する顔に年月を忘れる。本当に三十八年ぶりの方も居た。男・女を忘れる話しができるのが同輩だ。

幹事のSさんから「女性六人熱海に集まるよ、参加して…」と「はい、お世話になります。宜しく！」って電話を切る。

さあ私は仕事を続けているので大変。特に今年は割りの合わない空振り仕事で忙しいと言うのもこの上なし。社の暦に《休》と印す。家の者には一泊で参加すると言うと「大丈夫ですか？」とママ（長男の奥さん）に言われる。

六年前からの持病で外泊に自信無く過ごしてしまっている。が、今回は春のこの陽気に切り替え出来たのか。

〝ただひたむきに働いてきた。屈辱にも耐え、能力の限り闘ってきた自分にとって仕事とは、会社とは、いったい何だったのだろう〟

近江正文「五五歳の手紙」の中から、Mさんの持って来てくれたもの引用…。

ふーん尤も尤もと想いつつ、こんな心境に傾いて居た。

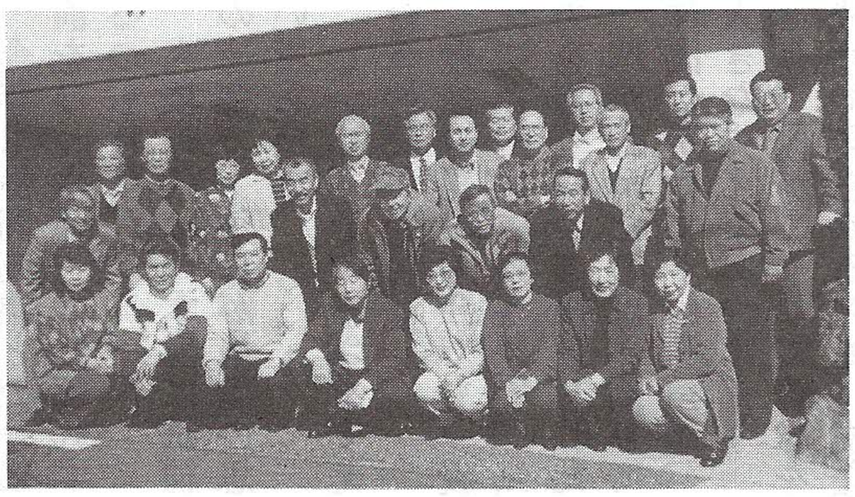
六時宴会、幹事のKさんのリードで、自己紹介が始まった。

厳しいこの経済環境の中で、それぞれ第二の職場に行く人、残る人。

立場を変えてお聞きすると、私の今の心境を越えられる。

〝うーん、そうそう〟と美味しいお料理を頂きながら二八人が一つになった様な気がしたのは、私だけではなかったのではないでしょうか。

身体も外に出たのだから、たまには心の中も外に出すと良いでしょうと、歳重ねて少し立ち止まる時間が持てた様な気がする。



女性陣で深夜まで、あれこれ語らい。この年齢でない感じ方があったり、皆んな持っている大事な大事な道を歩み始める一歩にさしかかって来たと、私の心は大きく良い方に、今回の集いで傾いている。

翌日、女性四人、鎌倉を歩いて廻った。小さな境内の中の茶店で喫したお煎茶の美味しかったこと!!。

皆様にもお分けして上げたかった。

今度、お会いするのはいつかしら、Hさんのお顔が浮かんで「きっと治っているよネ。」

春の花冷えする夜に想いを致し乍ら、同輩とは良いものだと……。

（増田勝江）

飛翔会（四十三年卒）　もっと仲間意識を持とう

関東地区の仲間が集まっての同期会を「飛翔の会」と名付けてから、早いもので、七回目となる忘年会を十二月五日（土）に開きました。

会場は、同期富田君の親戚が経営する京橋の寿司屋『するが』（色々とサービスして頂きました。）

新鮮で、とても美味しいネタに舌鼓をうち乍ら、参加した一〇名（男女各五名づつ）が夜の更けるまで、楽しい歓談の一時を過ごしました。

当日は、残念ながら雨模様の天気で足元も悪かったのですが、在校当時、応援団で腕を奮った小山君が、懐かしい顔を見せてくれました。

話題は、やはり一〇〇周年の事、静岡で開かれたイベントに参加した富田君から、大勢の参加者で盛大な祭典であった事、三〇年ぶりに会う顔と名前が結び付かなくて困った事、などの話があってから、各自の近況報告と、新顔の小山君を中心に大いに話がはずみました。

大阪勤務だった軟式テニスの有ヶ谷君が、当地に転勤になり、消息が判りましたが残念な事に、今回は出席して貰えませんでした。次に会えるのを楽しみにしています。

これからも、転勤・移転などによる新たな情報がありましたら是非連絡して下さい。

幹事役として、一人でも多くの消息を知り、飛翔会への参加を願い、近況を確認し合い、互いに励まし合い乍ら、仲間意識を育んで行く事を目指しています。

今年の七月十日（土）の総会は、活気溢れる楽しい会にしたいのです。

先輩・後輩の垣根をはずした和やかな同窓会になっています。

誘い合わせて気軽に参加をして下さい。

たとえ、都合で出席できなくても幹事役への励みになります。

「ご返事だけは忘れずに！」

（長橋　修）

水曜会（二十七年卒）　箱根で開催

二十七年卒の同期新年会は、前年に引き続き箱根・強羅荘に於いて午後六時から、参加十三名の元気な顔ぶれにより一月十七・十八の両日開催しました。

〝湯ったりと強羅に集う年始め　我が友々の充ちたる日々を〟

池田氏の、会を詠める歌の通り会は和やかに進む。

成川幹事より、昨年十月十日に静岡・ツインメッセに於いて開催された、百周年記念式典及び、祝賀パーティーが千八百名の参加者のもと盛大に行われ、同期諸兄も多数の参加があり、楽しい一時が過ごせた、との報告があった。

美味い料理と旨い酒に舌鼓を打ちながら、参加者の近況・抱負の発表などで賑やかな宴を満喫する事が出来ました。

恒例となったカラオケ大会は、箱根八里の合唱をはじめ、各自自慢のオハコが飛び出し、いつも通り、夜の更けるのを忘れさせてくれました。

（年のことを考えない万年青年が大勢集まると、結構楽しいネ。）

快晴となった翌日は、素晴らしい眺望の大湧谷で、黒タマゴを頬張りながら延命祈願を図る者、足慣らしに公園を散策する者など、それぞれがフリータイムを楽しんだ一日でした。次回の再開がたのしみです。

（安田春雄）

今も探し続ける あの「一球」

神谷　努（H9年卒）

俺が千葉に来てから、もう三年目の春を迎える。

この二年間を頑張れたのも高校時代に、おそらく俺の野球人生の中で、これ以上ない「一球」を経験したからである。

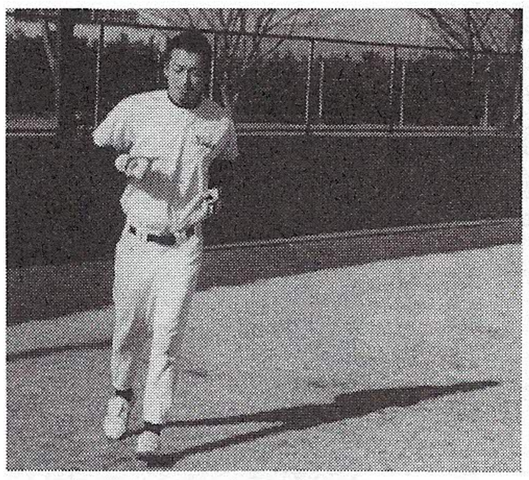
現在、俺は千葉工業大学で、野球部に所属している。千葉県野球連盟では、一部に所属し全国大会に向け、日々練習に取り組んでいる。

一年生の秋から、ベンチに入れてもらい、二年生の春には、開幕投手を任せてもらった。

そんな中、今年で三年目を迎える俺にとって投手としても、選手としても自覚を持つべき年代になった。

高校時代の榊原良祐先輩も、捕手兼P・Hとして、チームの主力的存在となっている。

これからの試合で、静商バッテリーの再現も少なからずある筈だ。



今年も静岡商業という名前をひっさげ、大あばれするつもりだ。

高校時代は、本当に試練の連続で、毎日が地獄の思いであった。

しかし、その辛さを支え合う仲間がいた。

最後の夏の大会でも、疲れ切った体に鞭うって、気力を振り絞って投げられた一球があったのは、周りで仲間がかけてくれる声が、大きな支えであった。

今、俺がこうして野球を続けて居られるのも、支えてくれた仲間の声と、あの一球を、今も探し続けているからである。

会員だより

この欄は親睦コーナーです。同友へのお便りにも、どうぞ！ 1

黒ハンペンと幻の鰹

山口ひろみ（42年卒）

卒業して三十数年……。長年携わっていた仕事にも区切りを付けた時、ふと脱力感の様なものを味わい、同窓会に足を運んでみた。

気分を変えたい時は、気の置けない友との他愛もない無駄話も必要だが、同窓会という、世代は違っても同じ懐かしさを共有出来る人達とのお喋りは、とても良い刺激になり、まさに嵌まったと言うのか、癖になる事間違いなしである。

先輩方の胸の引き出しに詰まった、素晴らしい思い出話に、懐かしい黒ハンペンの味を噛みしめながら耳を傾けると、歳をとるのもオツなものだと、つくづく感じさせられる。

ところで、焼津で育った私には、黒ハンペンと共に忘れられない味に鰹がある。

叔父が造船業を営んでいた事もあり、青葉の季節ともなると、陸揚げされたばかりの初鰹が我家にやって来る。

父が結構器用に三枚におろし、片身はサシミに、もう一方は焙って、たたきに、さばいてくれたものだ。

どちらも、口の中でトロリと、とろける味が強烈に春を感じさせてくれた。

時には、モチ鰹（正式には不明だが、父がそう呼んでいた。）なるものに出喰わす事もある。

姿・形・色合いは他の鰹と全く違わないが、口に含むと、それはねっとりと顎に吸い付く感じがしてコクがある。

その後モチ鰹とは縁がないが、私にとって、まさに幻の鰹である。

残ったアラは、母が生姜を効かせた濃い目のダシ汁で煮てくれた。味がよくしみて、血合いまでかき出し、しゃぶる様にして食べたものだ。更に、そこにお湯を注ぎ、飲み干した汁もなかなかのもので、これを飲めば「アロエに優る医者いらず」とは母の口癖だったが、五十余年の人生で、風邪をひくこともなく元気で居られるのは「ヒョットして母の説が当たり」かも知れないと、フト思ったりしている。

四十代を満喫中！です

三石輝子（46年卒）

現在四六才。専業主婦。元気が取り柄の毎日です。

四十才を区切りに退職しそれまでの仕事中心だったハードな生活が一変しました。

仕事が――という手抜きの口実が使えなくなり、自分でも感心するほどの主婦の鑑？に大変身！

それでもたっぷり出来た自由な時間を、いかに使うか最初は戸惑いました。

時間が出来たら、あれもしたい、これもしたいと考えていたのに、「サアどうぞ」となると結構難しいものです。

まずは、以前からやりたいと思っていた陶芸を始めようと教室へ。

土の感触の心地良さ、無心になっての菊練り。

初めて出来た湯呑みの何と分厚く、重く、そしてうれしかった事か！

お茶の味も又格別でした。

さて次は、車の免許。

これで行動半径もグッと拡がり、フィットネス・クラブへ、セミナーへ、友人と映画を観たり、ゆったりとランチタイム。

子供がいない気楽さと、夫の寛大さのお陰で、私は今、四十代を満喫中です。

人それぞれの、春夏秋冬。皆様は、いかがお過ごしでしょうか。

山行の魅力とは

大野康彦（46年卒）

私、ただ今46歳。本格的に（装備を整え始めた頃）山に登り始めたのは35歳頃だったと記憶しています。

昔、田舎の高草山に何度か登ったほか、何の経験もない私でしたが、大学時代ワンゲルをやっていた友人に誘われ、山の基本を教えてもらい、その後は自分で回数を重ね、体得してきました。

山登りが趣味になったのは――まず高尾山に登る。そしたら、向こうに秩父の山々があり、金峰山に登ると、向こうに八ヶ岳があった。八ヶ岳に登ると、南アルプスがとても美しく見えたので、北岳に登る。それが何んと雄大なことか、この魅力に取り憑かれ、次第にのめり込んでいった――という具合です。

七年前、勤め先で「KEL山の会」というクラブを結成し、現在は会社の仲間と、およそ月一回のペースで、山行きを楽しんでいます。また、最近は女房殿も連れ出し、旅行を兼ねての巡り歩きを楽しんでもおります。（但し二日以上の冬山と、沢登りは厳禁です）。

山の魅力は何といっても征服感、自然との出会い、いで湯、そして運動不足の解消とストレス回避です。

昨年の夏、北アルプスにて70代後半の男女、しかも単独行の元気な姿を見て、"私もあと30年は大丈夫、焦らず気長に頑張ろう"と思っている今日この頃です。

北アルプス水晶小屋分岐より槍ヶ岳を望む

「私は」ではなく『私たち』

関塚仍子（40年卒）

母校創立百周年の記念行事に参加した折り、女子生徒に改めて感動いたしました。

グレーのワイシャツ、えんじのネクタイ、紺のブレザースーツ。

スカートから膝小僧がのぞき、紺のハイソックスに変わったのが、よりキュートであり、しかし、振る舞いはどことなく優雅で淑やかなのです。

戻れるものならばもう一度あの制服の袖に手を通し、校舎を行き来してみたいと思いました。

現在、関東支部の女性会員は全体の約1/4を占めるに至り、回を重ねる毎に総会懇親会は勿論、歩く会、ゴルフ同好会、カラオケ同好会等への女性の参加者も増えております。

勿論、子供に手がかかり又、年老いた両親の世話に追われ、仕事がと、会への不参加が余儀ない方々もいらっしゃることでしょう。

今の人達は私を主張し、私たちという意識が欠けがちで、他人の事を考えない人間が機械の様になってしまっています。

一年に一度、ひと時を先輩、同僚、後輩達の幸せな顔と出逢い、今の自分を誉めたり、振り返ったり、新しい自分を発見したりし、明日への活力へと繋げてみませんか。

私たちは、静商の同窓生です。

「私は」ではなく『私たち』と言う意識を持つことが、幸せになる鍵かもしれません。

静商同窓会関東支部は、これからもずっと皆さんの参加をお待ちしております。

関東支部に、もっともっと「女性の風」を吹き込みましょう。

「春のうたゝ寝」

渡辺忠章（31年卒）

今年も浅間山の桜まつりがやってきた。

今日はうたゝ寝で〝静商時代〟のホームページでも見ることにしよう。

今はPCをカチ／＼やれば、簡単に情報を見られるが、俺達の頃は〝観ピューター〟。

静商を知ったのも野球部の真っ白なユニフォームと慶応帽のホワイトラインふたすじ。

格好が良いから静岡では一番もてた？。それに決め手は「静岡商・田所　全試合完封の快挙」の優勝パレードだった。

（27年春の選抜高校野球）

当時は、まだTVが無く、映画全盛の様だった。

雨に唄えば（デビー・レイノルズ）、ナイアガラ（マリリン・モンロー）、地上最大のショウ、ヴェラクルス（ゲイリー・クーパー、バート・ランカスター）、裏窓（ジェイムス・スチュアート）など、懐かしい洋画だ。

更に、当時の新聞広告を見ると、時代背景が浮かんで面白い。

月賦販売開始、コロムビア・ラジオ、立体映画明日八日より、日本最初の公開決定！。

トリス・ウヰスキー大瓶三四〇円、ラジオ東京・テレビきょう開始、若い人の間で、サンヨー・ポータブルラジオ、などなど。

ドラマチックだったのは、29年夏の準決勝だ。

〝静岡、高知に逆転勝ち〟の飛田穂洲の名戦評から、一部を（29・8・24朝日新聞）

「――高知は巧みに機先を制したが、松浦の巧投はそれを許さない。しかも、つかんだ七回のチャンスを静岡が逃がした時、武運ようやく高知に傾くかにみえたが、静岡のネバリ八回に見事逆転、一瞬にして勝負ところを変え高知は無念にも一敗地にまみれ、優勝への望みは絶ち切られた。まことに気の毒であったが、これも又戦うものの常であり、再挙をはかる他に道がない。」

この辺でスイッチを切る事にしよう。

会員だより

この欄は親睦コーナーです。同友へのお便りにも、どうぞ！ 2

忘れ難き故郷・静岡

鎌田和枝（43年定時制）

こんにちは!!

初めてお便りします。

静商と聞くと、定時制に通った四年間の青春の日々が、懐かしく思い出されます。

仕事を終えて駆けつけた給食室で、楽しく友と語り合った時のこと、学校帰りの暗い夜道で、いきなり大きな犬に吠えられて怖い思いをしたこと等々…。

引っ込み思案だった私は職場の人間関係などで悩んだ事もあったけど、学校では、先輩も、後輩も、勿論同輩も良い思い出ばかりです。

結婚と同時に東京に来ましたので、友達ともたまに電話で話すくらいで、ほとんど会う機会もないままに過ごしておりますが、自宅からは、晴れた日には富士山が見えますし、生家があった静商の、あの付近は私にとって〝忘れがたき故郷〟なんです。

今年は一番下の息子が、高校に入学しました。

私も新たな気持ちで元気に、日々楽しく生きていきたいと願うこの頃です。

この頃の私

藁科綸造（30年卒）

永年の会社勤めから解放されて、暫くたちました。勤めている頃は、自由な時間が出来たら、あれもしたい、これもしたいと考えておりましたが、結局未だに手付かずです。

目下のところ、朝夕、軒先に来る野鳥に餌をやり、観察し、屋根に上ってアマチュア無線のアンテナの具合を調べたり、毎日一時間程度の散歩をしたり…。こんな事で、その日ぐらしをむさぼっています。

四月十日、関東五十六会の会合に出席しましたが、皆さん、それぞれに第二の人生を満喫しておられるご様子で、昔話に、カラオケにと、楽しい一日を過ごさせて頂きました。

よーしこれからは、六十の手習で、料理も、パソコンも……と。

サテ!!どうなりますか？

ビンゴでテレビを頂きました

浅井弘三（40年卒）

総会には今回初めての参加でした。それも運営担当の年次との事で、受付等の手伝いのつもりで出席させて頂きました。

百周年を祝う記念の総会という事でもあり、懇親会は、華やかにお祭り色に賑わっておりました。

とりわけビンゴ・ゲームには場内も一層の盛り上がりを見せ、いささか興奮の坩堝（ちょっとオーバー？）と化していた感があり、その中でラッキーにもテレビを頂いてしまいました。

宝くじはもとより、くじ運には全く縁のなかった者ですが、今回のお役目にたいする神の思し召しと、有り難く頂戴いたしました。

おかげで我が家は、各部屋に一台ずつとビジネスホテル並み？の豪華さを誇っており、家を建てた時、ケーブルテレビの配線を用意しておいて良かったと今更乍ら思っています。

今時、テレビのチャンネル争いでもありませんが、見たい人が見たい時に思い通りに楽しめるなど、今回の幸運を感謝しています。

有り難うございました。

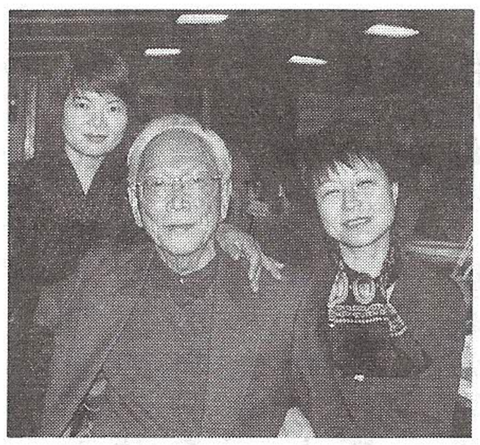
同趣好感

「第一回屋形船・東京湾の夜景と夜桜の集い」

同窓会の原点ここにあり　老若男女集いて粋な屋形の船遊び

支部同好会の「歩く会」（幹事・30年卒望月秀雄）並びに「からおけ同好会」（幹事・48年卒青木洋一）による合同イベントとして平成の大不況にもめげず、3月27日(土)「第一回屋形船・東京湾の夜景と夜桜の集い」を盛大に開催いたしました。

当日は桜の開花時期にはピッタリ一致したものの、あいにくの雨でしたが、13年卒の78歳のA大先輩を筆頭に総勢30名で定員70名の舟を貸し切り、定刻通り午後5時に深川木場の吉野屋（牛丼ではありません）を出航したのでした。


老いも若きも合い集い

最初は海上から見る高層ビル群。レインボーブリッジ、お台場海浜公園など、普段見慣れない光景や、舟の適度な揺れに酔いしれていた我が静商OBの紳士・淑女たちも、適度なアルコール（実は過度でした…）が入った後は「いつもの元気な静商OB」に変身してしまいました。

いつもは一升瓶を抱え、真っ先にご自身の世界に陶酔してしまうB大先輩が、飲み放題にもかかわらず、同伴された奥様に酒量を制限され、いつもより静かであったことを除けば、おそらく参加された皆様の本当の姿であったと推察いたします。

お台場に係留すると同時に、ほぼ卒業年次毎の簡単な自己紹介を行い、その直後からカラオケの部に突入ここから先は、私自身もいつも通りアルコールを流し込んでおりましたので、自分が一曲歌ったこと以外は断片的な記憶しかありませんが、簡単にその一部を紹介しましょう。

偉大な校歌を全く違和感なく、見事なまでにシャンソン風にアレンジしてしまうC大先輩（真の「波メロディー」よりも光っていた……ザッツ静商校歌）

「川の流れのように」を力強く、且つさり気なく歌い上げ、からおけ同好会へ是非お誘いしたいチョット上（？）のD先輩・静岡から現地調達してきたというハッピと鉢巻き姿で、習いはじめたばかりの詩吟を披露してしまうE先輩・我が同期の美女とデュエットし（曲名は思い出せません）「パートナーが良かった」と30回以上も繰り返しコメントされ、大変ご満悦だったF先輩。

幹事に代わりウオーターフロント名所案内と、カラオケの部（殆ど全部）を仕切っていたG先輩・我が母校が、今夏甲子園に出場しても応援団長が務められる（2回表までが限界とも囁かれている…）と参加者から拍手喝采を浴びたH先輩等々、断片的な記憶の中で諸先輩の大変元気な姿を垣間見ることができました。（ご紹介出来なかった先輩の皆々様、思い出せなくてゴメンナサイ。……全ては酒が……）

しかしながら、我が静商の特に20年代・30年代卒の先輩は、芸達者で大変元気であり、改めて年金改革の必要性を実感致しました。（オット失礼、一生懸命支えます……余談です。）

いろんな事がありましたが、7時30分頃（ハッキリ覚えていませんが…）出発地木場に帰港しました。

下船後、小生の脳裏にふと故郷静岡の山（竜爪山の雄姿）河（安倍川の清流）が浮かんできました。

出来るなら、あの楽しかった静商時代にもう一度戻ってみたいなどと、柄にもなくチョット妙な気分になってしまいました。

歩く会

新宿御苑から明治神宮へ

歩く会(14回目)は、曇り空の中、昨年11月22日新宿御苑からスタートした。

ゆっくりの、11時集合で新宿御苑に勢揃い。

記念の写真撮影の後、気の合う仲間と、苑内を散策。

新宿御苑は戦後現在の国民公園として開放されたもので、広大な敷地にプラタナス並木のフランス式、芝生広場のイギリス式、加えて日本庭園が巧みに組み合わされており丁度、菊花壇が綺麗に飾りたてられており、アマチュア・カメラマンも好みのアングルで、花の撮影に余念がありませんでした。

芝生に座り込んでの昼食の後、明治通りを原宿に向い、東郷神社に参拝、骨董市をヒヤカシながら明治神宮を厳かに参拝。ラッキーにも二組の結婚式にめぐり会い、シアワセのおすそ分けに預かる。

今回はご家族連れを含め22名が参加、山田雅子さんが宇都宮から、41年卒の松本豊さんが我孫子から初めて参加してくれました。

百周年記念イベント「武蔵野の路を歩く」も完歩で締めることが出来ました。

これからも皆さんの積極的なご参加と、お望みコースのお申し出を待っております。

成川貞夫（27年卒）

この記事を読んでいる、「静商ハンサムボーイ」、「静商プリティーガール」の皆さ――ん、こんなに楽しい会を来年（3月最終土曜日か翌週土曜日）も予定しています。

是非参加なさってみては如何でしょうか？

貴方の人生観が変わるかも知れません……

来年木場・吉野屋の乗船場待合い室で、お待ちしております。

（取材班）
酒好き・歌好きの望月延夫(48年卒)でした。

同好会だより
ゴルフ ①

記念（定例）コンペ
支部長杯争奪戦に優勝

織部忠義（32年卒）

ゴルフ同好会には、平成六年八月に、宍戸国際CCで開催の、第四回大会に二度目の参加で幸運にも優勝し、百周年記念大会に「支部長杯争奪戦」への参加資格も持って参加しました。

今迄の大会は、殆ど早朝から電車などを利用しての参加でしたが、今回は初めて「前夜祭」からの参加が可能になり、藤沢から余裕をもって出掛けました。

温泉や、焼き肉パーティー、ホテル並みのロッジなど非常に楽しく過ごさせて頂きました。

早朝の雨でいささか心配しましたが、スタート時には小降りになり、問題なくスタート出来ました。

ハンディキャップは、新ペリア方式で「支部長杯争奪戦」は事前に17と決められておりましたので、今日はパープレイの89で廻ろうと考え、前半のインコースを45、後半のアウトを44の目標でイメージを描きスタートしました。

記念コンペ参加者（那須小川）

前半のインは、多少の力みと雨の影響で思い通りのプレイが出来ず、残念乍ら48と目標オーバー。

僅差でしたが、幸いにも優勝と言う栄誉に恵まれ、素晴らしいカップを頂戴し心から喜んでおります。

同伴メンバーに恵まれ、堅実プレイの森下先輩・飛ばし屋の同期、堤君・経験は浅いが熱心な宗野君と、バラエティに富んだ方々と和気藹々のゲームを楽しみながらも、崩れそうになると「頑張れ」と励まして貰いました。

雨上りの止まり易いグリーンも味方してくれ、前夜祭からの参加で睡眠も十分グッドコンディションでプレイ出来たお陰と思っています。

有り難うございました。

昼食時の生ビールと、半ば諦めの開き直りでリラックスし、臨んだ後半戦ではその甲斐有って、1・2番ホールを連続パーであがる幸先良いスタートに引っ張られ、ほぼ思い通りのプレイでアウトを43で締めくくり、トータル91の2オーバーで終了。

楽しかった初参加！

岩城一恵（48年卒）

「大丈夫かな？」と本気で不安になったのは上野駅で電車に乗る時でした。

コンペの前夜祭に参加する女性は私一人。

そして、ゴルフを始めたばかりでコンペに参加するなんて、何んと向こう見ずな！と思えて来たのです。

私は四十才を越えた時、今までの生き方を少し変えてみようと思いました。

仕事と子育てなど、日常生活に振り回され、自分自身の為に時間を使う事に後ろめたさを感じていたのですが、「これからは、私自身の為に何かをしよう。色々な人に出会い、積極的に活動しよう。」と決めたのです。

そんな時、関東支部に出会い、今回のゴルフコンペ参加となったのです。

氏家駅からのクラブバスでは、和やかに先輩達がご自分のグリーンデビューの時の話しをして「楽しくやろうよ」と励まして頂き、有り難く感じました。

前夜祭の一ページは、温泉でした。那須の山々を目前にした星空の元での露天風呂は、とてもリッチな気分にさせてくれました。

そして、思う存分食べて飲んだ焼き肉パーティーの二ページ目。

高校時代の思い出話に花が咲き、先輩達の顔は、熟年の紳士ではなく、十八才のイタズラッポイ青年の表情でした。

三ページ目は、ビール片手にクラブハウスの一室に集まり、明日のゴルフへの期待で盛り上がりました。

当日の朝は大雨、でも、次々に到着する参加者が揃い、スタート時間がくると見事に止んだのです。

緊張で、顔をこわばらせながらもスタートした私は、山を駆け上がり、駆け下がり、何回も何回もクラブを振り回し、くたくたになりました。一緒にプレイして下さった、上山先輩・渡会先輩・斎藤さんは、そんな私にペースを乱され乍らも、ルールを教えて下さり、アドバイスを下さり、お尻をたたいたり、時には褒めて下さったりで、嫌な顔もせず、最後までゴルフを楽しませて下さいました。

心から感謝しています。

来年は、ブービーメーカーの名に恥じないように、少しでも良いスコアが出せるように練習に励みます。

こんな私のような者も、同好会に居てもいいんですよネ。

同窓会の皆様、来年は私と一緒に参加しませんか。

春季コンペ 優勝のことば

鈴木守（37年卒）

スカイウェイ・カントリークラブで、はからずも優勝でき、大変嬉しく喜んでいます。

勝因は沢山ありますが、まず簡単に分析しますと、第一にパートナーに恵まれたことです。大変月並みな常套句ですが、今回、本心そう思っています。

根底には同窓生という気楽さがありましたが、ご承知の様に、ゴルフはメンタル部分の多いスポーツです。常にリラックスした状態でプレイできた事は、何んといっても最大の要因です。

同伴の高山さん、村上さんのお陰です。

第二は、天候に恵まれた事です。ゴルフはスポーツであると共に、レクリエーションと思っているので、運動会と同じで雨なら中止して欲しいと常々思っています。従って、雨中は極端にスコアが悪くなるのが私のゴルフです。

今回は、インのトップスタートでしたので、雨の影響は少なく、後半の2ホールにやゝ降られたものの、終わりに近かった事もあり、助かりました。

第三は、リズム良くラウンド出来た事です。これはパートナーに負うところが多いのですが、それ以上にティグラウンドで待つとか、後続組から追いまくられるとかが一切なく、全くスムースに快適なリズムでラウンド出来た事です。

以上の三点が主な要因と思っています。

誠に有り難うございました。

同好会だより
ゴルフ ②

記念（定例）コンペ
満足ゴルフを目指したい!!

紅林　勲（31年卒）

ゴルフは奥が深いスポーツである。

ゴルフは頭のスポーツであるとよく聞く。しかし、年のことも忘れ昔の飛距離を追い求め、スイングフォームを崩し、道具に頼り、練習場では反省ばかり、ゴルフはやはり頭のスポーツか?。

今だに悩めるゴルフを続けている私である。

百周年記念コンペが昨年10月16日、那須小川カントリークラブで開催された。

これは私の奮闘記。

（恒例の前夜祭）

私の楽しみの一つである。

まず、近隣の馬頭温泉郷・南平台温泉観音湯でひと浴びした後、知光先輩の肝煎りで焼肉料理「山粋」で行われる前夜祭会場に向う。

相変わらず青年のように若々しい甲田大先輩、厳しい仕事、煩わしく小うるさい家庭(?)から解放された（これは私だけか）皆さんの若々しい笑顔、特に美人女性の参加で華やかさも増し「山粋」の支配人から差し入れのワインと、焼き肉に舌鼓をうち、明日のゴルフを忘れるほど楽しい一時を過ごしたのであった。

（大会当日）

例によってゴルフとなると朝早く目覚める。

今日はやるぞと張り切って集合場所へ向かう。

私の組は同期の一色さん、磯部先輩の奥様（特別参加）の3人でスタートした。

1番ホール：ドライバーはまあまあの当たり、2打目失敗、反省のスタートである。7番まで失敗・失敗の反省ゴルフで、ついに9番までパー無しの50を打ってしまった。

午後は天気も回復し、上々のコンディションだったが、10番で初のパーをとったものの、その後は反省ゴルフのダブルボギー連発、唯一救いは14番でのドラゴン・バーディーであった。

結局トータルスコア99で上り、やはり反省ゴルフの一日であった。

（表彰式）

優勝者は、最年少の高山さん、若さにものを合わせての優勝である。

歴代優勝者で競った支部長杯は織部さんの手に輝き、女子の部は、我がチームの磯部夫人が勝ち取った。

次回は反省ゴルフを卒業し、満足ゴルフを目指し練習に励みます。

ゴルフ同好会からのお知らせ

☆定例コンペを開催致します

＊平成11年10月15日（金）

＊那須小川ゴルフクラブにて（前夜祭あり）

― 多数の参加をお待ちしています ―

問合せ先：事務局　知光まで 電話 03(3468)7700
FAX 03(3467)0202

☆下記の方々が役員に選出されました

会　長	甲田安太郎　13年卒	
事務局長	知光敬距　27年卒	
常任幹事	八木陽司 27年卒	上山富義 38年卒
	紅林　勲 31年卒	織部忠義 32年卒
	鈴木　守 37年卒	高山房之 49年卒
会　計	斎藤まり子　48年卒	
監　査	成川貞夫　27年卒	

同好会
カラオケ

ボーリング&カラオケの集い

浅場利朗（38年卒）

カラオケ同好会が、平成のモヤモヤ不況をマイクとボールの力でぶっ飛ばそうと、年忘れボーリング&カラオケ大会を大挙行。

年の瀬も押し詰まった12月26日。参加者26名

第一部　ボーリング大会
（中野サンプラザ・ホール）

6チームに分かれての対戦とし、先輩による始球式にはコケル人あり、ガターで笑いをとる人ありで、沸き起こる歓声のなか、和やかにスタート。

個人戦は、若さとパワフルが売りの高山さん（49年卒）が前回に続き獲得。

団体戦はチームワークを誇る、我が仲良しグループ（鈴木・34・及川・望月・48）が見事接戦をものにしての優勝でした。

年に数度のボーリング遊びですが、ゲームのさ中に静かな闘争心が沸き上がるのも、まだまだ若さが残っている証かも知れないと密かに思いつつ無事終了。

第二部　カラオケ大会
（豪華カラオケルーム）

紳士淑女の皆さんも、ひと度アルコールがまわれば剛健進取の名に恥じぬ静商生、指名を待つ迄もなく、得意のジャンルで美声を競うことシキリ、中でも圧巻は特別参加のプロ歌手・川守宏さん（51年卒）。盛り上がりに大きな花を添えてくれました。

特に女性陣（川守プロよりは年上?）は、プロ歌手とデュエット出来るとあった、乗り〳〵状態、時間延長は当たり前とあって、5時間はアッという間に過ぎてしまいました。

「波メロディー」の合唱で幕となりましたが、安倍川の風が恋しくなった時はまた、是非共参加したいと思っています。

お悔やみ申し上げます。

白井千佳子様（50年卒）
平成10年11月13日
逝去されました。

カメラ同好会結成のご案内

カメラ好きの方々にお集まり頂いて、同好会を作りたいと思います。

興味をお持ちの方は是非ご賛同下さい。

詳しくは懇親会の会場でご案内致しますが、当面は年に2～3回の撮影会を予定しています。

発起人　榊原貞夫　29年卒

平成10年度会務報告及び11年度計画

☆事務局よりの報告

〔平成10年度〕

①役員会
幹事会2回
常任幹事会5回開催

②同窓会入会式
平成11年2月26日(金)
新入会員　計三二一名
（内　関東地区への就職8名、進学39名）

当日関東支部会報第7号を卒業生全員に配布

③本部役員会への出席
常任幹事会等の会合に支部長の代理として副支部長他交替にて出席

④総会案内
発送一六九四通（出席一五六・欠席二七六・返信ナシ一一九九）

〔平成11年度予定〕

①役員会
幹事会2回
常任幹事会5回の予定

編集後記

百周年記念行事も無事終了し、一息入れたところ。多くの方々から玉稿をお寄せ頂、今号は特集号と致しました。ご協力に感謝！

これからの集まりは、気軽な服装と、気楽なお気持ちでのご参加を！の機運が高まっています。

来年の、支部結成10周年に向けて、文殊の知恵を拝借したいものです。

ご協力をお願い致します。

会費・寄付等納入者御芳名

（敬称略：順不同：単位千円）

会員の皆様の暖かいご支援、ご協力に対しまして厚く御礼申し上げます。平成11年3月31日までにご送金頂いた方々の御芳名を下記の通りご報告申し上げます。誤字がありました場合は深くお詫び申し上げます。

卒年・氏	名・金額
S4年尾崎	郁三 4
7年長谷川	正二* 4
伏見	博 5
8年戸田	定雄 2
10年海野	次郎 5
中村	克巳 5
若泉	博 2
11年住川	敬三 2.5
13年甲田	安太郎 3
14年天野	八郎* 7
小林	鉦次郎 5
15年石月	恒夫 2
加藤	寿夫 2
16年古柳	芳郎* 12
田中	幸太郎 10
寺尾	幸夫 2
栗田	誠一 2
大河内	武 2
高橋	清 2
17年石月	啓司 2
18年田中	輝夫 2
20年久保	弥六* 7
石原	貞雄 3
渡辺	茂男 2
21年嶋田	安雄 3
中原	孝一 2
村松	京平 2
鈴木	恒太 2
22年比奈地	徳三* 2
尾関	忠 2
伏見	多美雄 2
23年後藤	和信* 40
関	勉 2
望月	成雄 2
24年内藤	義人* 12
後藤	一雄* 7
油井	徳二* 7
石田	徳次郎* 4
森下	壹雄 10
里見	勝弘 5
山本	直樹 5
深尾	孝 5
澤西	博信 3
25年湯本	克巳* 82
前田	俊夫 2
26年天野	覚* 4
村越	英夫* 2
和田	匡史* 2
庄司	靖夫* 2
小沢	清三郎* 2
松浦	彰 5
根本	昭 2
大塚	昭次 2
長島	宣夫 2

卒年・氏	名・金額
27年藤浪	稔央* 62
望月	健三郎* 4
磯部	信雄* 4
成川	貞夫* 2
池田	博之* 2
曽根	満夫* 2
斉藤	健* 2
八木	陽司 10
野村	眞彦 10
浅井	武司 5
浅井	英一 2
桑原	宏幸 2
堺	精一 2
梅田	定男 2
磯部	弘美 2
甲賀	二郎 2
志田	実 2
関根	進一郎 2
上田	伸子 2
近藤	柳太郎 2
加藤	銀作 2
伊東	越朗 2
28年上山	富義* 4
中西	三郎* 2
渡會	修司* 2
知光	敬矩* 2
藁科	年衛* 2
藤村	貞夫* 2
鈴木	基之 2
後藤	一夫 2
29年榊原	貞夫* 12
小林	貞夫* 12
望月	鉱一* 7
内海	知之* 4
永井	賢雄* 2
山岸	光男* 2
山田	雅子* 2
富田	修一* 2
興津	高里* 2
三森	光雄* 2
池田	裕代 2
浦山	實 2
原田	雄吉 2
勝又	房子 2
鈴木	正子 2
大畑	辰雄 2
田中	恵津子 2
30年海野	昭* 32
佐藤	富士夫* 12
堀内	鋒行* 12
伊藤	広治* 7
望月	昌房* 5
大森	泰次* 4
古井	陸志* 2
望月	秀雄* 2
山本	京一* 2
堀田	英夫 5
藤田	実 2
高木	慶二 2
31年長谷川	勉* 7
義村	貫一* 5
紅林	勲* 5
大原	章利* 4
一色	正一* 2
渡辺	忠章* 2
石川	嘉男 10
山田	正彦 5

卒年・氏	名・金額
31年高木	博 5
浜田	誠三 2
山内	五郎 2
植田	昌宏 2
大石	幸男 2
長島	佐治郎 2
32年中村	達郎* 22
福嶋	幸一* 7
織部	忠義* 7
宗野	治義* 7
松本	一宇* 2
志田	時通 10
阿井	勝利 5
木佐森	達夫 3
黒瀬	明 2
堤	正義 2
清水	實 2
石神	佳子 2
芳村	昭太郎 2
海野	昌伸 2
川村	潤司 2
島田	卓司 2
斉藤	鉄治 2
山島	利一 2
33年曽我	和善* 4
上條	佐恵子* 4
秋山	賢司* 4
増田	昌男* 4
山崎	善男* 4
池ケ谷	栄一* 4
新村	隆博* 2
三浦	斌* 2
入野	克彦 10
原	芳夫 2
森田	幸子 2
高橋	甫 2
本間	好武 2
野呂瀬	誠子 2
柴田	弘 2
竹内	清 2
佐野	勝一 2
34年小長井	武夫* 5
鈴木	啓嗣* 4
常盤	秀樹* 4
桑原	達夫* 4
高木	美子* 2
竹内	祥子* 2
水野	恵司* 2
谷本	寅雄* 2
岡村	克己* 2
青木	修次 5
土屋	堅固 5
和田	政治 3
前田	雄祐 2
柴	義弘 2
三尾	規子 2
青木	利浩 2
平井	シズヨ 2
田村	富男 2
35年坊野	清之* 7
秋山	八重子* 4
金子	きのえ* 4
山田	昌之* 2
栗田	裕夫* 2
宗野	賢次* 2
市川	幸子* 2
植田	佐代子* 2

卒年・氏	名・金額
35年鈴木	祐輔 2
鈴木	一雄 2
中川	尚子 2
小林	一男 2
小島	利明 2
36年海野	治* 12
鈴木	皓介* 7
横島	啓枝* 7
小長井	建昭* 2
前田	雄幸* 2
大石	康年* 2
小泉	恵一* 2
湯本	鐵夫* 2
高木	英雄* 2
西本	博重* 2
杉山	篤 10
増田	勝江 5
平井	幸雄 2
勝又	節子 2
堤	訓子 2
下沢	明子 2
石井	清史 2
37年松田	弘* 12
鈴木	守* 7
青島	幸一* 7
中田	有智子* 6
安川	榮子* 4
長谷川	英樹* 2
西島	一二三* 2
寺山	勢津子* 2
見崎	洋一郎 4
石川	雅敏 4
牧野	幸雄 2
38年梶山	恭一* 7
松浦	宏* 5
杉本	博行* 2
浅場	利朗* 2
鈴木	一晴* 2
松木	範一* 2
吉田	茂夫* 2
吉沢	英夫 20
小沢	昌明 10
岡村	優 5
五十嵐	昭夫 2
斉藤	誠治 2
増田	実 2
牧野	正嗣 2
39年杉山	俊夫* 2
清水	豊 10
40年関塚	仍子* 12
神谷	雅男* 7
原	初典* 4
森谷	綾子* 4
浅井	弘三* 4
鷲巣	雅彦* 4
見城	正博* 4
長田	豊* 4
庭野	美恵子* 4
中畑	稔* 2
中野	幸子* 2
佐藤	真寿美* 2
40年山村	利男* 2
益子	久美子* 2
神山	孝* 2
和田	康男 2

卒年・氏	名・金額
41年松本	豊* 4
小林	吉照* 2
坊野	秀美 5
坊野	やえ子 5
遠又	安雄 2
望月	定幸 2
42年小林	幸義* 4
山口	ひろみ* 2
筧	正治 2
木下	孝子 2
43年長橋	修* 4
岩下	喜美枝* 2
富田	正己* 2
秋山	八重子* 2
尾上	高志 4
杉原	愛子 3
原木	妙子 2
鎌田	和枝 2
菅原	栄司 2
44年鈴木	哲夫* 4
野谷	さち子 2
46年池谷	和代* 4
大澤	伸公* 2
三石	輝子 4
杉山	齢一 3
斎藤	礼子 2
47年青木	輝美* 4
久村	澄江 2
48年斎藤	まり子* 4
青木	洋一* 2
渡部	広志* 2
岩城	一恵* 2
豊岡	弘子* 2
及川	のり子* 2
牛村	優子* 2
小川	えり子* 2
小泉	博* 2
中井	弘子* 2
杉本	芳子* 2
佐藤	俊介* 2
望月	延夫 10
森	隆幸 3
仁田	直機 2
依田	寿江 2
吉沢	則子 2
49年高山	房之* 7
50年増田	哲雄* 4
田形	晋* 2
白井	千佳子* 2
杉本	幸雄* 2
51年井上	真理子 2
52年小柳	博嗣* 2
56年小菅	秀子* 2
61年桜井	秀樹 2

（注）氏名の右* 印は総会出席者を示します。

KOKEN
株式会社 光 建
代表取締役 知光敬矩（28年卒）
〒151-0066 渋谷区西原2-34-2
TEL 03-3468-7700 FAX 03-3467-0202
千代田区三崎町・中野区中央・光建ビル

三共綜合印刷株式会社
代表取締役 藤浪稔央（27年卒）
〒102-0072 千代田区飯田橋3-11-22
TEL 03-3230-4555
FAX 03-3230-4880

—解 体 業—
株式会社 ア サ バ
代表取締役 浅場啓介（29年卒）
〒130-0013 墨田区錦糸1-1-5
TEL 03-3625-2671(代)
FAX 03-3625-2673

やまのふところの国
奥伊豆
AMAGI
自然林と茅葺屋根、11の湯処
日本の宿 嵯峨沢館
〒410-32 静岡県田方郡天城湯ヶ島町嵯峨沢
TEL 0558－85－0115
植田幸子（38年卒）

トイレットペーパー・タオルペーパー・モップ・ウエス及清掃用品
各種マット及敷物・スチール製品及家具
オフィス文具・事務用品・ビル管理用品・ビル清掃用具
東京都紙商組合員
マルミ屋株式会社
代表取締役 湯本克巳（25年卒）
本 社 〒104-0051 中央区佃1-9-11 TEL 03-(3531)-6878・5778 FAX 03-(3531)-5771
営業所 〒174-0041 板橋区舟渡4-3-1 新日本製鉄株式会社 東京製造所内 TEL 03-(3968)-6841

静商100周年
おかげさまで
創業30周年
職場にレストランを！
本券お持ち下さい
ディナー15%サービス券
株式会社 全食
・社員食堂無料診断承ります
（本 社）
〒170-0014 東京都豊島区西池袋1－29－5（山の手ビル）
電話 03-3988-3151(代) 担当:営業本部 佐藤
◎ アフターファイブをみんなで楽しく
（新宿南口）カフェ ブランジェ 3379-8234
（日本橋三越前）中央二葉亭 日本橋店 3272-3020
（池袋東口）中央二葉亭 池袋店 3984-5571
（駒 込）レストラン 六義園 3942-4199
（船 堀）居酒屋 えるばりゑ 3675-9843

— コンピュータ・ソフトウェア開発 —
株式会社 エイプルジャパン
代表取締役 阿井勝利（32年卒）
〒108-0073
東京都港区三田3－4－10 リーラ聖坂7F
TEL 03-5443-1235 FAX 03-5443-1236
営業所：東京事業所・福岡営業所・新潟営業所・札幌営業所
事業概要：● コンピュータソフト各種開発
● CALS・EC（電子商取引）・応用・業務・制御システム・イントラネットシステム・マルチメディアシステムのコンサルテーション、設計、開発、保守
● ユーザサポート（スーパーコンピュータ・大型コンピュータの各種OS）

三共 SANKYO 100
おかげさまで、創業100周年。
●次の諸症状の緩和：眼精疲労、筋肉痛・関節痛（肩こり、腰痛、五十肩など）、神経痛、手足のしびれ「ただし、これらの症状について、1ヵ月ほど使用しても改善がみられない場合は、医師又は薬剤師に相談して下さい」●次の場合のビタミンB1B6B12の補給：肉体疲労時、妊娠・授乳期、病中病後の体力低下時
医薬品
50錠 1,800円／120錠 3,600円／250錠 6,800円（税抜希望小売価格）
眼精疲労・肩こり・腰痛の症状緩和
リゲイン®EB錠
ビタミンB1・B6・B12製剤、天然型ビタミンE配合

現代を生きる人のたまった疲れのために。
新発売